

なまば利益隨て多しといふの理は近く又建築費を力め
て節減すべし法の適へばなり
さて前上舉ぐる所の箇條より其要と挿んで以て工業者
の記應に供ふべき
一資本の利用の速に運轉して毫も停滯すること能はに
あり

固定資本と運用資本の間に制限を立て成るべく固定
資本の増加させると要
一工場の建築は營業上の勿論衛生上に適し無用の粧飾
と施さず又監理に便なるべし

一原料の仕入は製造高並に販賣高の比例し過不足お
たは要し且つ決して賭博類の所爲あるべからず
一起業者自家の費用は利得平均高より少く定め決して
此制限と超ゆべからず

一利益の一部を積金となり工業の嵐と防ぎ工場の
基礎を堅固になすべし
一工業家の専ら節儉と旨とすべし然れども決して吝嗇
に陥るべからず

○津山益進社の畧況 津山地方の養蠶製絲に邁るるや
(完)

余が喋々と待たせしつ明るに且つ從來諫業と營む者な
きにあらばと雖も之僅なる製絲に―販路之れなく
遂に損耗して中止するに至りては是乎士族中有志の輩
奮起して明治十五年一の社と設け名けて益進社と云ひ
相共に販路と疎通する以て主眼と爲去無く改良の事
に勉め其が其際空からす―年一年に養蠶家を増し
製絲の方法次第に改良を加へ且販路漸次開くるに至り
先づ今日の如くなまば連年目的と達するの日あるべき
依て今本社明治十五年より本年まで五年間の製絲販
賣の表と掲ぐるま左の如き

明治十五年	三拾六貫目	百斤の價五百五拾弗		
全	十六年	七拾貫目	全	五百七拾五弗
全	十七年	九拾五貫目	全	六百貳拾弗
全	十八年	百貳拾貫目	全	六百五拾弗
全	十九年	百七拾貫目	全	六百八拾五弗

(西北條郡津山益進社幹事 飯田武雄)

○砂防工事實驗の說 夫れ山地荒敗の患害する重且つ
大なり矣故に土崩の潰流と扞止ま禿山に樹林を養成以
るは今日の最大急務なるを以て我岡山縣に於て之既に

明治十六年砂防工施行規則を發布し管内一帯之を施行
せしむ實に一大美事と謂べたあり抑も砂防工事なるや
我國に於ては土木局御雇工師蘭人ヨハテレイケ氏が明
治八年以降淀川流域山城國相樂綴善二郡の諸村砂崩山
に創工せし連東藁綱工「蘭名子ツト、ウエルキフアン、
ストロー、イ、ツパ」と稱する土砂扞止法と以て嚆矢
と爲す尋く廣島縣等に於ては單に其工法と施行せりと
雖も我岡山縣に在るは其他張芝工積苗工柵止連東藁
藁工等各其地形に應じて之を施せり而して連東藁綱
工なるもの連續したる藁束を以て半態菱形に埋込竹
串と柵止め隆起なるらゝめ菱目の中は松柵等の苗と栽
植するものにして雨水を斜に寛流させ直射激流して土
砂の流下と防ぎ藁の漸々腐爛して自ら瘠地に沃土と作
り樹苗と養育成長せしむると以て禿山に樹林と作るに
崩砂と扞止すると兼るの良法なりと然りと雖も該
工法の未だ敢て完全普通の良法と確定はべからず何と
も是れ砂防の法とる樹苗稍生長し樹根稍分布し其地を
凝結するに至る迄其土砂の飛動潰流と扞止するにあり
然るに其扞止はべき藁は僅に一歳と經るに至るに己に

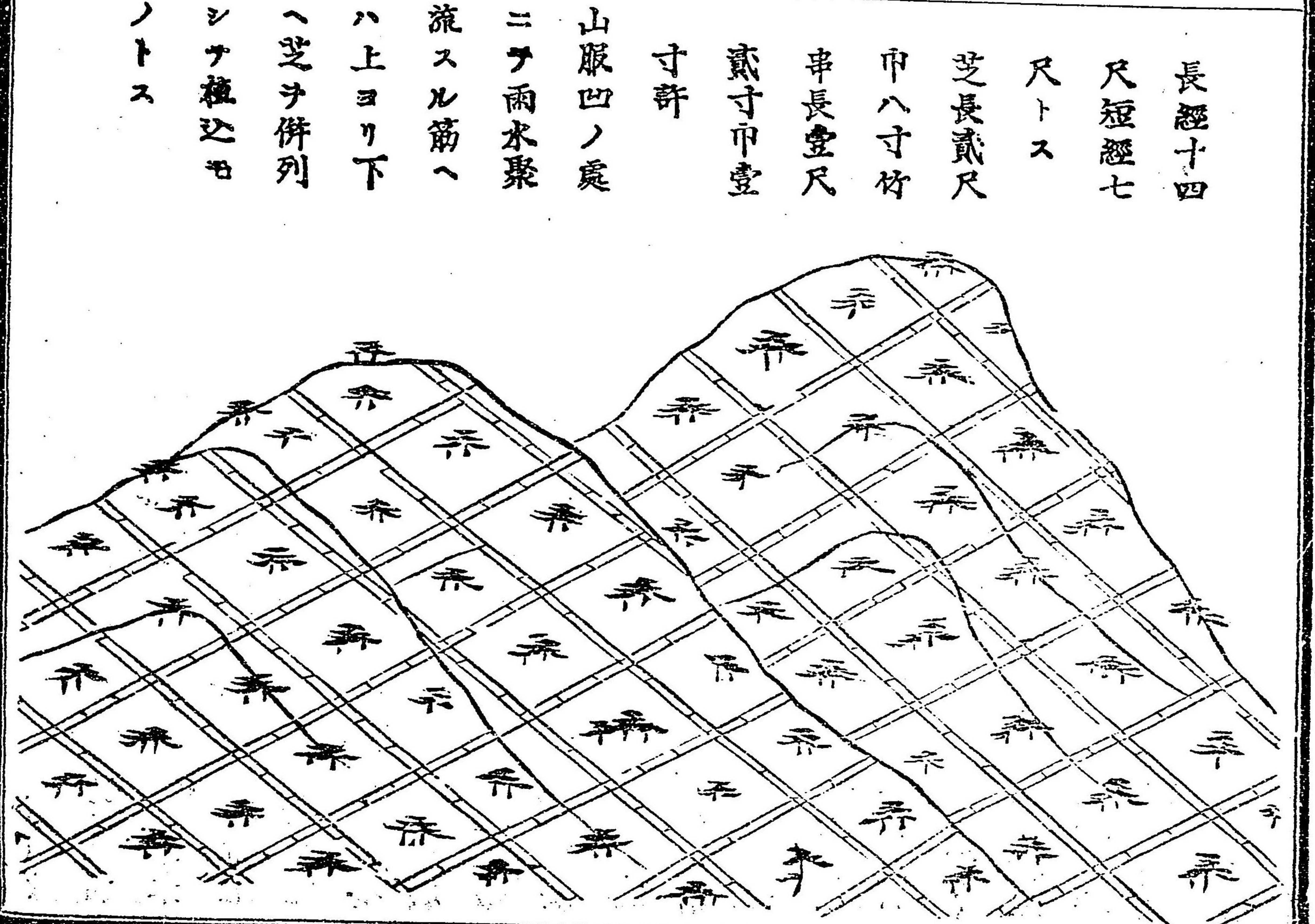
腐爛し其功用は失ひ樹苗未だ養料の資に乏しく―
樹根未だ分布せし樹根分布せされば崩砂の流下と支持
する能はは降雨毎に土壌は暴露し偶々風散を承る草木
の種子は之に留むると得ず又或は確確の溪谷の如きは
樹苗と養成するの土壤なき等の憂ひあれり余は諸
種の工法と以て實施したる處と通觀し孰れも不完全
あり―と憂ひ百方思惟し自ら研究發明して實地を經驗
せしは効用頗る確實なりと其工法とるは恰も連東藁
綱工に齊しく切芝と以て菱形に植込み竹串と柵止て隆
起なるらゝめ菱目の中に松柵等の苗と栽植する等唯に
藁と芝に換用するものにして雨水と斜に寛流させ直射
激流し土砂の流下と防ぎ瘠地に沃土と作り樹苗と成
長せしめ禿山に樹林と作るに土砂と扞止すると兼る
に亦連東藁綱工に異ならずと雖も其始め植込み芝は
日々蕃茂して崩砂と遮止するの力漸々旺盛となり能く
土砂の飛動潰流と扞止するに―樹苗速に成長し樹根
速に分布し其地を凝結するに至り且つ芝は土砂の覆
ふに隨て倍々蕃茂し大に雨水激流の速力を得けて激流
せまむ故と以て能く風散し来る草木の種子と留め又或

ハ礪圃の溪谷に在て芝附の沃土ハ直に樹苗と養成はる
 めと藁の腐爛を后ち漸々肥土に化するが如き迂遠の
 策に非ざるあり加之其工費を藁とと比較して大に減少
 なる實に一舉兩得と謂べ去則ち余ハ昨明治十八年備中
 國小田郡東三成村全郡用ノ江村の両村内の砂崩山に於
 く連束藁網工張芝工積苗工柵止連束柴藁工并に發明せ
 く切芝網工等の諸工法と施行を各對照して之と審査せ
 くに他の諸工事ハ不完全の所ありと雖も獨り切芝網
 工に限り極く完全なる其得失著したるのあり頃日隣郡
 より砂防工に従事するもの來りて其成績と熟視し孰れ
 ん皆此工法と實施すべきものなりと一致せり因て茲に
 其實驗説を記去て之と公報し以て國家の大患たる砂防
 工事完全法の轉く世に廣行せんことを希ふ

(小田郡矢掛村
 砂防委員 佐伯 義門 報)

切芝網工之圖

此圖ハ菱形筋ハ切芝ヲ植込ミ芝壹枚毎ニ竹串貳本ヲ
 採止テ墜落ナカラン山兩シテ菱目ノ中ニ松苗ヲ栽
 植シタル處ナリ
 但シ菱形ノ寸法



(○) 麥稈製作傳習場開設 本郡有漢、巨瀬、上有漢の三村
 ハ從來大麥のみと播種するの慣習あり該稈を屋宇の葺
 用に供はるまでにて田圃の肥料等ふえ其功薄れものなる
 るが近來製作の道開け麥稈を以て種々の品物と製造す
 るあり依て前記の三村聯合して有漢村五百九番地民舎
 ふ於て麥稈製作傳習場と開設し該教師二名と聘し貧民
 の子女を集め十月七日より傳習全下旬生徒の數五拾餘
 名日々登場進々盛大に至らんことを冀圖す右は貧民風
 水の害を罹り目下飢饉に堪へざるもの救濟の一助とな
 なり一舉二全と得るの見込みなり

(上房郡有漢村
 勸業委員 網島 宏一 報)

商 業

米穀改良ノ儀ハ已ニ勸業諮問會員ニ對シ兩度迄モ諮
 詢サレタル折柄堂島米商會所ヨリモ右改良ニ關スル
 意見書ヲ開申セシニヨリ載セテ當業者ノ參考トス

○米穀改良ニ關スル堂島米商會所意見書

御縣管下兩備産米の義は品柄精良にして其産出額多く
 汎く膏譽と博取致候依て當米商會所に於てハ創設爾來

其上米は諸米格付表中第三等の部ニ差加へ有之候然る
 に近來其品質進々粗惡に流し殊に乾燥調製宜しうらさ
 るる故に兩備米一般の膏價に影響し實に御管下農民の
 不利益少許ならず益々兩備の上米ハ稍海外輸出に適し
 外國商人に於て相應望取候品柄に付充分改良の上精選
 相成候えり内國の需用ハ原より海外の需要と増加一倍
 々販路と擴充し彌々兩備産米の膏譽は輝一改良の勞力
 に報ゆるの福利と得へざる必然の事と奉存候既に御廳
 に於てハ十分此邊に御着目被爲在米穀改良上の義に付
 追々御勸諭の上種々御世話御座候由ハ傳知仕候間不遠
 改良の結實と可被奏事と奉存候蓋去弊會所に於て心付
 候庶々御參考の爲め左に并陳仕候

一 米穀は凡そ其品質色澤、形状、乾燥、調製等の良否如
 何に據り其品格等級則ち需要の程度に對する價格と
 生するものハ付製産者に於ては充分茲に注意あらん
 おと冀望仕候既に當米商會所に於て定期約定賣
 買の受渡米ハ該五目の審査と以て品柄の等級及價格
 と評定仕候

一 近來農民に於て米質良否の如何に願慮せず往々救

獲の多量なるに眩迷し粗悪の肥料と施し一本稻と稱する作法は據るものあり此の米は白米に精製する其米粒毀折、白減少らす殊に養分稀薄あるり故に食味悪く自ら需要と減し價格と低落し差引製産者の損失兩已から其國の「ナチエール」則ち固有の品質形状と變更する等延て其銘柄に影響し著しき損害を受くるものに付充分注意あらんかと冀望仕候一秋獲の頃則ち其年の十一月より翌年四五頃迄は其品質色澤等に著しき異状おき其七八月則ち梅雨土用の兩役と經過したる後に至り全く固有の品質色澤と失する兩已から甚しきに至りては其形状と變体し粒々腐融するものあり蓋し斯の如き異状と米したる所以に肥料の良否又は耕作上の精粗如何に關係と有するものなるへいと雖も必要に乾燥の不充充分なるもの之れも重因たるへいと又依兼に多少の濕氣あるものと用ゆる等之きと幫助したるもの如し米して然らば原米特有の品質色澤形状としく人爲の不注意より遂に其質價と毀損するは愚も又甚しき實に歎け歎け第と奉存候間一層茲に注意あらんことと

冀望仕候
一近來米穀製粗悪ふして連々固有の形体と變するものあり實に思はざるの甚しきものと言はざる可らば蓋し依製と改良するも成るべく其特有の形状と失えざる様爲さざる可らざる義あるに然か爲さずして彌々粗製に流るる自ら世上の信用と毀損し其質と墜落にるの損害あるもの付宜しく茲に注意し十分改良あらんかと冀望仕候
一改良の目的は其品質を精良に其事實と世人は知得せしめ以て其改良に費消しする勞働と資本とを酬ゆるの利益と享受せんとするにあり故に世人として之を知得せしめ茲に十分留意せしむるの緩急遲速は最急製産者の得失に著しき關係と有するものに付可成的速し之れと知得せしむるの方法手段に據らざる可らず原米製産物は概ね需用の程度如何に據り其價格と支配せらるるものなる故に需要者増加し販路と擴充せらるるに熱心競勵するに實に供給者に於て最も盡さざる可らざる當然の職務にして又忍耐剛毅以て其好果と結成せざる可らざるなり蓋し改良の事

實と知得せしむるの方法は其製産品を輸入する關係の最も重んじ土地に於てはると捷徑とす幸ひ此度當米高會所の仲買人等協同一致し且當會所より十分補助し商況新報なるものと發兌仕候該新報は商業に係る一切の景況殊に米穀商業上に對しては最も注意と加へ要領の事柄と報道し且つ米商會所改良の機關とするの主旨と以て設立仕候事に付該紙へ其改良に係る要領と時々掲載せば其需要者も勿論米穀商業に關係と有する商人は普く之と知得せしむるべく又當米商會所に於ては米穀商人ふ之と知得せしめんとめ其要領と市場所に掲示を猶受渡米の際精々其審査と詳密に可仕候間改良組合へ御勧告の上其改良の要領等細大漏なく報道有之候様仕度候又豫て本年の産米を分折を審査の資料に供て度存居候其組合より製産地名并に製産人名等と記載し少許運送相成候は其資料と増加し受渡米の審査に一層正確ならしむる義に御座候

大麥	一八九〇	二一〇〇	小麥	三六八〇	三九〇〇	大豆	三六〇〇	三六〇〇	小豆	三六〇〇	三六〇〇	醬油	三六〇〇	三六〇〇	酒	三六〇〇	三六〇〇	茶	三六〇〇	三六〇〇	白糖	三六〇〇	三六〇〇	赤糖	三六〇〇	三六〇〇	煙草	三六〇〇	三六〇〇	繅絲	三六〇〇	三六〇〇	木綿	三六〇〇	三六〇〇	綿絲	三六〇〇	三六〇〇	金巾	三六〇〇	三六〇〇	繭	三六〇〇	三六〇〇	生絲	三六〇〇	三六〇〇	海味	三六〇〇	三六〇〇	蔴	三六〇〇	三六〇〇	藍	三六〇〇	三六〇〇	丁銅	三六〇〇	三六〇〇	鐵	三六〇〇	三六〇〇	材木	三六〇〇	三六〇〇	水油	三六〇〇	三六〇〇	石油	三六〇〇	三六〇〇
----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	---	------	------	---	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------	---	------	------	----	------	------	----	------	------	---	------	------	---	------	------	----	------	------	---	------	------	----	------	------	----	------	------	----	------	------

米	上	五〇九六	中	五〇三三	下	四九五六
品	石	五〇〇〇	石	五〇〇〇	石	五〇〇〇
品	石	四八四三	石	四七三三	石	四六四三

野吉		興		南勝		北米		南米		計總	
早	雨	早	雨	早	雨	早	雨	早	雨	早	雨
四六三	二八五	八八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
七四	五七	一五	一〇	五三	一〇	六六	八五	二九	二九	二九	二九
六九	一三	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四
五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六
七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七
八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九

〇 十月 中 氣 候 表

地 名	華氏 溫度 最高	全 最 低
岡 山	七 十 五 度	五 十 九 度
津 山	七 十 一 度	六 十 四 度
高 梁	七 十 二 度	五 十 九 度

農商工月報

凡例

- (一) 此月報ハ汎ク農商工ニ關ルル事項ト集メテ其ノ整理ヲ營業者ノ參考ニ供スルニシテ其ノ非ニ非ニシテ他ノ報告類ニ屬スルモノト雖モ採録スルコト有ルベシ尤モ取捨ト稱スルコト有ルベシ其ノ意見ニ任ズ
- (二) 此月報ニ通俗語彙トモシテ成ルベク平易ノ語ト以テ之ヲ記ス
- (三) 此ノ月報ニ姓名ト記スルノ私説ハ其當否本課ノ保証スル處ニ非ニシテ看者宜ク取捨スベシ
- (四) 何人ニテモ農商工事ニ關ルル論説報告又ハ質問等ノ書ト本課ニ送ル時ハ之ヲ取捨採録スルベシ其ノ評ト求メ又ハ本課ニ於テ答辨スルコト有ルベシ
- (五) 有益ノ論説報告ト寄セタル人ヘハ其報酬トシテ月報壹部又ハ數部ト贈與スルコト有ルベシ其ノ寄稿者ハ其住所姓名ト明記スベシ

明治十九年十二月十五日印行

岡山縣第一部農商課 第十一號

目次

- 農 業
 - 桃樹の記
 - 蠶病講義筆記
 - 英田郡農事獎勵會
 - 窪屋郡種苗交換會
 - 下道郡種苗交換會
 - 各地農况
 - 暴風雨の景况
 - 各府縣下著名種苗
 - 日本山林副産物素
- 商 業
 - 物價
 - 金融
 - 岡山米商會所報告
- 水 産
 - 鯉魚養育法
 - 鰻鱺
- 本課記事
- 氣候表

○桃樹の説 桃は果實頗豊産なるものなれば木は兆と加へたりと古の書に見へたり誠に桃は其果頗る佳香甘美なりて其花亦と觀賞に耐ゆ若し能く土質と種類と撰び栽培其法と得るとれば結果多くて其利益亦鮮なるらざるべし今左に其大要と記す 村 上 長 造記

土質 桃樹は誠に多くの果實と結ぶものなれば世の人々が偶々之れと屋敷回りに植へ其樹次第に生長するに及ばず結び殆んど熟せんとする頃に至り樹脂と出食用となす可からざるに至ると見て桃樹も我が地方にも適せざるものなりと云へり然れども是を已實に大なる誤りと云ふべし斯の如く桃樹と屋敷回りに菜園杯の如き肥氣の多き地に植ゆるとれば其生長誠に盛んにして其樹能く蕃茂を盛んに花と開き多くの實と結ぶといへども其熟れる時分よは樹脂の爲めに其果を遂に腐敗するものなれば多く桃樹と植付けんといはる人々山畑杯の如き多分の肥氣なれば高燥に及ぶと交へざるが如き地と撰ぶべし若し斯る地に植付け剪枝栽培に手と盡さば樹脂氣なれば多分の良果實と採取することを得べし

種類 桃樹には其種類誠に多くて花の美ふも觀賞に供すべきものなりと果の佳良に及ぶ利益と収むべしものあり其我邦に産するもの亦三十種に下らむ中一就其觀賞に供すべしもの 緋桃 淡紅赤色 八白桃 極白 本紅 八白桃 源平 八重咲 江戸 残雪 極白 大輪 牡丹 桃 淡紅 大輪 淡紅 赤色 形 菊 其他 櫻桃 西三母 下垂枝 唐等桃 數種あり又果實主とて栽培すべし種類中樽屋桃は其果極めて大に及ぶ少く三角形となす熟期頗る早く半面紅色と呈す外觀最も美に及ぶ味亦た甘美なりと云ふ少く酸氣と帯ぶ樹形矮小にして直上せむ 稻田桃 一名鹿の子桃は其果大にして核紅色と帯ふ肉亦た紅色の斑点ありて味頗る美あり黒尾桃も其果圓く及ぶ形ち冠の如く川中桃も其果圓形にして極めて大なりといへども年により非常な豊産あるあり鳥羽桃 吹田屋 桃も何れも形大にして味最も甘美なりといへども樹脂多くと栽培に困難あり其他五月桃、塩屋、山つき、寒桃等の數種あり又外國産のものも其種類頗る多く清國種水蜜桃も上海産と天津産との二種ありて上海産のものも妨げなし又た桃樹を前に陳べざるが如く地に肥氣多ればたわ樹脂の溢出し又果に苦味と與ふる等の患あるは糞尿等の如き肥料と與へむと木灰等枝の回りに施すと可とす ○桃樹も亦た他の果樹の如く剪枝となきれば果實小にして品位下劣となるものあり之と行ふに秋季落葉の後利刀を以て本年生ぜし新條の先き三分の二許りと剪り去るべし尤も之と剪るにも成るべく樹を矮小にし横に枝を開かむる様はすべし又桃樹は前年生せし枝に結果するものおまは三年越の枝も剪り盡つべし ○花已に落ち果實已に梅子大に生長するときは時々之と点檢し若し果實と果實と相附着しあるときは生長の悪きは取り去り形の良れをのみと残し置くべし又葉や枝杯の果實と接するとき一々之と取除かむ之と其儘に捨て置くべし必ら樹脂溢出するものなり是を桃と作る手入方の第一肝要たる事とす ○桃樹植付後早と果實と結ぶもの取れども亦早く樹勢の衰ゆるものなれば已に十年許りも結果し樹の已に衰ふるときは漸次之と剪り去りて新し良苗と植付くると得策とす(甚く樹脂の出つるとき)

ものなれば果最大なりて圓形となし淡黄色に紅斑と粧ひ外觀甚た美なり肉柔らかよく溶くるが如く味多漿甘美に及ぶ恰も蜜と吸ふか如く真に其名負うざるものと云ふべし天津産のものも果最大なり其先き尖りり外觀美なりといへども味は少く上海産のものに劣る清國種蟠桃も其形扁平にして奇形なり米國種黃肉桃も花淡紅色に及ぶ花辦甚く小さく其蕾のとき莖頭已に薔外に出づ其形甚た異なり果も其形圓くして淡黄に紅斑と呈し肉黄色にして多漿甘美なり米國種早生桃も果圓くして極めて早熟なり米國種扁桃も通常の桃と相違ありて其肉と食せむと核中にある仁と食するものなり米國種赤芽桃も嫩芽紫紅色にして頗る觀賞に堪ゆ果も小ふも甘美なり其他收擧に違あらむ

栽培法 桃樹の苗と植付けんといはるに先づ苗核の半分以上と剪り去り根先とを平滑に切り然る後ち之と植付くべし又植付初年に實と結ぶとあれども之と結ばざるときは甚たよく樹の生長と妨ぐるものあり其翌年よりは其生長の模様により二三乃至五六個の果と結ばしむ

よわ小刀の類と以て其根や幹は傷くべからずとれ其
 處に樹脂と吹き出さ大に果實の樹脂と減るものなり
 ○桃果も只に生食に供するのみならず或は之と砂糖と
 俱に煮て「シヤム」と製し其仁は香料も又藥用等に供す
 るものなり

群馬縣より配付せらるる練木喜三氏が蠶病講義筆
 記は當業者の裨益尠からざるに因り掲載すること左
 の如し

蠶病講義筆記 農商務一等技手 練木喜三 述

蠶の病理と説んか生理より入らざる可らざる蠶の生理
 と述らう解剖學亦た講ぜざる可らざるを先づ如斯順序と以
 て諸君の承聽と満足せしめんと欲するは「蠶の解剖」の
 演舌善く之と盡すと得んや

蠶体解剖の事幸に曩に佐々木長澤氏の演舌あり故
 に之と略し略し簡単に蠶の生理を説明し次で病理を論
 及せんとす

蠶の生理即ち蠶の生活する現状と簡単に述べせんには
 例と物に与るに如か諸君故の鉄道列車と看し列車は
 牽く者も河物も列車の先に在る「Locomotive」即ち氣

試みふ蠶と一器と容れて桑と與へ蓋と以て之と掩ふと
 きは蠶と蓋とを死す知るへも空氣をければ蠶も其
 生活と營む能はず火も亦さ燃ゆる能あさると

氣雖に炭と授け空氣の供給充分なれば其燃焼猛烈に
 と蒸氣を生ずるものと從て多く速力亦た從て大なり是れ
 石炭燃焼の際氣中の酸素と取ること多たると以て炭酸瓦

斯の生ずること亦た從て多く之に伴ふて生ずる温熱の
 大なるに因るなり蠶桑と食れば其桑胃腑も達志胃腑
 の消化と受けて其養ひとなるへれ分ち血液と混し全身

と一週するの間老廢物と生ず之れと炭素と云ふ其質石
 炭と大差なく抑も炭素は蠶体に大害あり速うに排除せ
 ざるへうらす之と排除するに一の装置あり何ぞや蠶体

の両脇に在る黒点は是をなり蠶目鏡と以て此黒点と見る
 とれえ其中央に孔あり之と氣門と云ふ無數の管あり此
 氣門より岐分して体中の諸部に蔓延す之れと氣管と云
 ふ蠶常に此氣門より氣中の酸素と吸取れば酸素は氣
 管と經り炭酸瓦斯となり此所も温熱と生ず是と蠶の体
 温と生ずるの源とに温熱は變して活力となり炭酸瓦斯
 は之と其氣門より呼出す桑と空氣との供給充分なれば

鐘車是あり抑も氣鐘車は其外見蠶と胃環の差管ならず
 と雖も其作用に至るとは又以て蠶の生活と營むと異なる
 ことあり諸君よ先づ氣鐘車は如何にして運轉するかと
 考一考せよ鐘あり水と入るべく火と焚く可し而して蒸
 氣發生す是れ之と一筒と導く内より吸子あり杆と通す吸

子運動は始むまは其活力と杆を傳へ杆亦く之と車に移
 し一瞬に電奔する數十里夫の大洋に激浪は激か黒龍と
 吐くの蒸氣亦も此「Locomotive」の條も亦も

ららるる而して如此絶たの作用と遂けしむるもの如何と
 や炭則ち是より炭は數種あり石炭木炭又新炭と以て之
 に代り蒸氣發生の邊のまゝの炭は如くものは本も蒸
 氣の蒸氣と要するは何れも蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 石炭と授けて之に点火すれば則ち可なり如し蒸氣も

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は
 蒸氣の發生の邊の蒸氣も亦も蒸氣の發生の邊の蒸氣の發
 生に差あるる如し蒸氣の發生の邊の「Locomotive」は

三〇二

觸せしむるの如きは反て人として寒中裸体せしむるの如く善哉言や
 如く害あり是も他なく諸君も既に熟知せらるる如く蠶の裸体にして吾人の如く寒暑に應ずるの設なき(即ち衣服)のみならず其性軟弱なるものなれば亦何れに養へ其の初め山野に自生し尺蠖と群と同めして桑樹に寄寓し共に桑葉を食するの害蟲たりしも其齒の美なるより人の爲めに家飼せらるる所とあるに及び馴致性となし卒に今日の怯弱と致せるなり其証蓋し蛾に在り四翅ありと雖も只紙上に蠢爾なるのみにて飛翔するの力をなき其元彼の香と追ひ花を齧るゝの蝶と何ぞ異ならん是れ譬へは布衣より起りて華貴の人となりたるか如く昔日の蠶は布衣の人なり今日の蠶は華貴の人なり豈に華貴の人として寒中裸体せしむるの如くおととなりて可ならんや然りと雖も漫に温暖と勉むれば反て大暑に重衣せしむるか如く恐きあり枝の清涼育と云ひ温暖育と云ひ其の地の氣候と蠶室の構造とを察して之を以て行へば孰れも好結果を得べしと雖も此の理と知らざりて偏すれば即ち失敗と免れに豈に又慎まざるへんや聖徳太子曰く養蠶を赤子と育するか如くせよ

本邦養蠶の業たる伊佛人にも尚且三舎と避く然るに近年頻りに不作と告ぐるものは抑も亦何ぞや是も實に蠶種の不良原因とせざるを得ざるなり夫れ蠶は桑と變じて繭糸とするの一機關なり養蠶家其の機關師なり枝の蒸氣船と見よ其造構装置は共に善美と極むるに機關師拙なれば之れと運轉する能わば機關師既に熟練なるに蒸氣船ふし損折あれは又其の目的と達する能わば蠶に於るも亦然り仮令飼養者其の業に熟達せるも蠶種不良なれば決して上作するの理を蠶種は已に善良なるも飼養者にして不熟なれば又決して上作する能はず是れ宛も車の両輪の如く蠶種の撰擇之を勉め飼養の術之を究めざるべからず 以下次出

○各地農況

十月上旬ヨリ早稻刈揚ケ精製セシニ早害弁ニ兩度ノ風雖ニ罹リシ爲メカ収獲見込ヨリ大ニ減シタリ全月下旬ニ至リ專ラ中稻刈揚ケニ着手セリ中晚稻ハ土地ニ由リ腐敗ニ屬セシモノ少カラス未タ精製セスト雖モ必ス減獲ノ見込ナリ綿作ハ風難後雨天多ク吹切悉ク是亦平年

ニ比シ減額スヘシ

全月十四日平川市場村ノ牛馬市ニ集リシ牛四拾五頭内販賣頭數拾八頭價額百七拾五圓、上三拾圓中拾三圓、下四圓位ナリ

全月廿三日一宮村ノ乗馬市ニ集リタル馬匹四拾七頭内販賣頭數四頭價格四百三拾五圓、上貳百圓、中百三拾圓、下三拾圓位右寄馬販賣共客年ニ比スレハ大ニ不景氣ナリシ(十一月二日津高野一宮村外三ヶ村勸業委員藤原藤三郎報)

本年ノ五毛早中稻共ニ目的ヲ失ヒ晚稻ノ收入亦甚タ少シ四度ノ風害ノ爲メ早中晚稻共皆ナ其穂ニ黒點ヲ附シ大害ハ無キカ如クナリシモ之ニ由リテ充實自ラ細クシテ其量ヲ減セリ此項ノ景況ハ總ヘテ平年ニ及ハス

麥播種ノ時ニ至リ降雨屢々、爲メニ田畑各々濕氣ヲ含ミ播種スルノ時ナシ適マ録ヲ以テ地ヲ穿テ強テ播種スル者モアリ或ハ未タ全ク播種セサル者アリ時氣大ニ後ル依テ考ルニ米春麥作ノ凶ナル前知スルニ足レリ人民ノ今ヨリ憂慮措ク能ハサリレハ妄ニ非ルナリ(十一月六日津高野管野外二ヶ村勸業委員坂野多賀治報)

部内各村ニ於テ早中晚稻共悉皆刈リ取レリ然レモ収獲甚タ寡シ

度々ノ降雨ニテ田面水湛ヘ農家一般麥蒔ノ出来サルニ困難セルノ際廿九日ヨリ寒氣遽ニ烈シク洪水爲メニ氷結シ目下ノ景況ニテハ十二月中旬及下旬ニ至ラズンハ到底蒔付方ノ皆濟ヲ見ルニ至ルマシ但シ高田又ハ砂泥リノ地ハ廿六日頃ヨリ播種ニ着手シ居レリ

甘藷ハ客月廿五日頃ヨリ製造ニ取掛レリ目下ノ景況ニテハ平年作ニ勝レルノ見込ナリ(十二月六日御野郡玉柏村外四ヶ村勸業委員水田重吉報)

客月中ニ中晚稻ノ收穫ヲ終ヘシカ其ノ景況ハ最初田ニ在ルノ際ヨリ實地ノ收入二分餘モ減少セリ

客月ハ小麥蒔付ノ期節ナレモ雨繁キカ爲メ一般ニ其ノ期ヲ後レタリ(十二月四日御野郡北方村外三ヶ村勸業委員谷合重安報)

本年麥蒔付ノ景況ハ客月上旬ヲ期トシ播種セントスルモ降雨屢々ニシテ燥田ト雖モ水田ニ等シク耕スト能ハス不幸ニシテ其期ニ後レ農民墜敷ノ聲アリ依テ本年蒔付段別テ平年ニ對比スレハ大略十分ノ三歩五厘ヲ減ス

ルモノト概視ス(十二月六日津高郡大窪村外四ヶ村勘
 業委員伊丹善三報)

客月ハ舊ノ十月ニ當リ麥播種ノ季節ナレモ夏季ノ早魃
 ト反シ降雨數度爲メニ田面濕地トナリ低地ハ所々ニ水
 溜リテ生シ高燥ノ地ト雖モ亦タ耕ス可ハス播種ノ期
 後レトナリ農民ノ困難容易ナラス中ニハ此ノ濕地ナ
 カノミヲ以テ耕シ小麥杯聊カ播種スルモ田野ノ廣キ能
 ク堪ユル所ニ非ス依テ其乾燥スルヲ待テ牛力ヲ藉ン
 ナ望ム入景況ナリ

本年稻作ハ挿秧後旱魃ニ罹リシト雖モ水路ニ盡カシ其
 害ヲ免レ稻毛非常ニ繁茂シ壹反歩ニ三石以上收穫ヲ得
 ル見込ノ處九月吐穂ノ際再ニ暴風ニテ穂先摩擦シテ粉
 壳腐敗色ヲ帯フ又後レ穂多分見ヘシモ竟ニ好果ヲ見ス
 故ニ大ニ減額ヲ来シ壹反歩ニ付壹石七斗五升位モ獲ル
 ナラシカト概視セラル(十二月七日御野郡七日市村外
 五ヶ村勘業委員高杉松造報)

本年ハ屢々風害ヲ被リ早中晚稻ヲ通シテ其穂ニ黒點ヲ
 現ハシ散テ害ヲキカ如クナリシモ之ニ依リテ自ラ登實
 宜カラス其量ヲ減シ此項ノ景況ハ總テ平年ニ及ハサル

カ如シ
 本年分與ニナリシ洋種「ハンボルク」菜種ハ一村ニ三
 名フ、播種セシメシニ發生セシモノ殆十分ノ一二過キ
 ス而シテ發生セルモノモ亦生育宜シカラス

小麥大麥裸麥播種ノ時期ニ際シ降雨多ク本月ニ至リ降
 雨日數ノ多キ凡十日ニ達シ爲メニ田畑濕氣ヲ含ミ播種
 スルノ時ナシ適マ土壤ヲ穿テ播種スルモノアリトイハ
 レ土壤碎ケスシテ甚タ困難セリ此ヲ以テ考レハ明春ノ
 麥作ハ如何ニモ懸念セラル(十二月四日津高郡栢谷村
 外三ヶ村勘業委員森芳藏報)

客月ハ登熟收穫ノ季節ナリ然レモ霖雨續キニシテ現
 所採半ナリ而テ當秋季ノ暴風數回ハ實ニ稻作ニ損害ヲ
 與ヘシモノニシテ之ハ爲メ客年ヨリ收穫ノ減少セシハ
 凡ソ二割許ナラシト概視ス(十二月十日御野郡第六部
 勘業委員霜山熊五郎報)

上下加茂兩村ハ燥田多キニシテ稻刈揚ケノ末十月下旬
 ヨリ十一月月中旬マテニ毎年裏毛麥作社村来リシニ本年
 ハ末秋ノ頃ヨリ降雨頻繁ニシテ稻刈揚ケニ後レ爲メニ
 麥ノ蒔付ケ今ニ終ヘヌ適マ未タ刈揚ケサル稻間ハ蒔キ

付クルモノアルモ濕田ニ等シク生立ノ不良ナルヲ見ル
 兩害ノ爲メ該麥任付方平年ニ比シ殆ソト二割ヲ減スハ
 シ且米作及秋作物等未タ充分ノ登熟ニ至ラザレハ農業
 上ノ被害不少トト思考セラル(十二月十二日津高郡上
 下加茂村通信委員森田宗五郎報)

本月中旬麥蒔キ付ノ季節ト雖モ上旬以降霖雨アリ又驟
 雨數度ニシテ田圃乾クニトナレ依テ各村蒔附反列凡十
 分ノ七ト概視セリ(十一月廿九日津高郡宇垣村外三ヶ
 村勘業委員寺島九郎報)

本郡北部村々山間畑田等舊ニ依リ畦大豆ヲ栽培スルニ
 發生ノ際兎或ハ龜ノ害ニ係リ收穫頗ル減少セシガ或人
 ノ説ニ依リテ大豆ニ換フニ稻苗ヲ以テ試作セシニ好結
 果ヲ得タリ右被害ナキ箇所ト雖モ霖雨ノ爲メ大豆ニハ
 被害多カリシ之ニ反シテ氣候本順ナレハ其枝葉繁茂シ
 本作ノ稻ヲ壓シ空氣ノ流通ヲ停滯セシメ且ツ虫害ヲ醸
 スノ恐アリ依テ該地方ニテハ畦大豆ヲ米作ニ改メン
 ヲ冀望ス(十一月廿二日和氣郡勘業委員高原嘉彌太郎報)

當部内本月ノ景況ハ前月ニ比スレハ稍ヤ降雨少ナカリ
 シト雖モ兩日ヲ積算スレハ七日ノ多キニ達セリ而カモ

其郡度大雨ニテ農事ニ甚タ困難ヲ與フ爲メニ麥田播種
 二非常ノ後レヲ取フシム其他ハ著シキ異狀ヲ見ス
 (十一月三十日小田郡宇戸谷外ニヶ村勘業委員川上才
 二報)

本年九月以來本月ニ至ル迄三ヶ月間ノ降雨ヲ計算スル
 ニ殆ソト三分ノ一即チ一ヶ月間ハ雨ノ量ニシテ麥作播
 種ニ苦ムコト數十日ヲ越レトモ尚ホ平年ニ時ク可キ麥
 刈量リテハ充分ノ作付ヲ爲ヌ可能ハス老農ノ談話ヲ聽
 ヲニ麥作ノ豊凶ハ播種ノ候ノ晴雨ヲ以テ最大ナリト云
 ト然ルニ本年ノ如キ降雨繁ケレハ作付ケ充分ニナラ
 サル而己ナラヌ適マ播種セシムヘキ培養法以テ之ヲ能
 ハス加ルニ既ニ施シタル肥料モ降雨ノ爲メ大概空シク
 ナリ實ニ老農ノ談話ノ如キ麥作凶歲ノ徵候ニハ無キ乎
 ト憂慮當ナラサルナリ(十二月六日上房郡豊野村外一
 ヶ村勘業委員大山繁太郎報)

稻作ハ吐穂ノ際暴風雨ノ災ヲ被リ爾後氣候不順ノ爲メ
 カ空初ヲ生シ收穫意外ニ減ス

綿ハ近來無比ノ成長ナリシカ九月中雨度ノ風雨災ニテ
 莖幹ヲ吹半倒シ或ハ實子ヲ墜落セシメ其後霖雨ノ爲メ

大ニ収量ヲ減セリ(十一月二日小田郡里山田外ニケ村
戸長小川龍平報)

神力稻試作

地質	段別	肥料名稱	期		收穫量	比地ノ收 穫比較増
			播種	收穫		
砂土 中等地價 六拾六圓九拾錢	壹段歩	千拾拾貫目 鮮拾五貫目	六月二日	十一月十五日	三石八斗	壹石九斗

右ハ本年二月中兵庫縣揖西郡中葛村圓尾重次郎ハ依頼
シ該種籾ヲ購求シ試作セシニ晚稻ニシテ本年早風ノ二
雖ニ罹ルモ頗ル出来榮アルヤ現在ノ隣地比較ニテ知ル
ヲ得ヘシ加之製米善良ナリ依テ該種籾ヲ希望スル者亦
多ク需メニ應シテ種籾ヲ交換ス明年ハ該稻播種スルモ
ノ多カルベシト信認セリ(十二月九日小田郡大掛村勸
業委員赤松寛太報)

生糸産出高數量四拾九貫目ニシテ收納金ハ千貳百圓
ナリ然ルニ數量ニ比較シテ收納金ノ少キハ未タ費リ糊
ケサル殘品アルニ因ル

生糸ノ價格ハ數量一貫目ニ付金三拾八圓ヨリ四拾圓六
拾錢迄トシ貴州地方ハ攝津神戶港ヲ以テ重ナルモノト

ミ從來ノ播方ヨリ一割八分ノ耕目ヲ減シテ播種セシニ
(從來一畝歩ニ種子二十四升時ヲ以テ通例トナセリ然ルテ
一畝歩ニ付一斗九升七合ノ割ヲ以テ種子ヲ下ロセリ) 苗ノ生
育著シク播種ノ期ニ際シテ白根平常ノ苗ヨリ多ク移植
シテ萎狀(方言ヨレルト云フ)ヲ呈セス順次繁茂シ普通
ノ苗ヨリ出来勝ツ一日數凡六七日秋收ノ期ニ至リ終ニ
一割強ノ増獲ヲ見ルニ至レリ且フ如何ナル理由カ本年
ノ如キ非常ノ暴風ニモ強ク壓セラレサリシ乃チ實驗ヲ
記シテ篤志家諸氏ノ參考ニ供シ併セテ其理由ヲ質ス(

十二月六日久米北條郡中北下村國米嘉太郎報)
毛水村ハ十一月氣候不順且降雨ノ多キヲ以テ麥播付季
節ヲ後レタリ中ニハ播付タルモ發生如何ヲ懸念セラル
一本年早風水ノ爲メ米穀收穫ハ平年ニ比スレハ凡ソ一
割五歩餘ヲ減レ其他畑作物ハ凡ソ二割餘ヲ減レタリ
向津矢村ハ水害ノ爲メ耕地半ヲ變シテ砂礫地トナリ米
穀ハ平年ニ比シ凡五歩ヲ減ス畑諸作物ハ皆無トナレリ
一中村日名村志山村影村高屋村福田村ハ米穀收穫風早
水害ノ爲メ平年ニ比シ凡ソ六歩ヲ減シ畑作物モ亦非常
ノ減獲ヲ來セリ

且上村野原村舞馬村吉村 播付期節ヨリ今ニ至ル迄降
ニ其ノ概略ヲ報ス

ス(十一月二日真島郡美甘外ニケ村通信委員布野宗一報)
煙洲ハ本月上旬マテニ刈入ヲ終リ稻ハ現今ニ至リ刈取
ヲ爲セリ(十一月一日真島郡種村外十四ヶ村通信委員
西田啓藏報)

稻綿作ハ成熟ノ季ニ至リ過半ヲ入ナシタリシカ本年
ハ數度ノ災害ヲ蒙リ爲メニ收穫平年ニ比スレハ四割餘
ヲ減セリ

麥ハ播種ノ季ナレバ雨天續キニテ今ニ播付ケテ爲ス
コ能ハス(真島郡鹿田村外八ヶ村通信委員辻壽太郎報)
本年ノ稻米收穫ハ前々報道セシ如ク平年ヨリハ多量ノ
見込ナリシモ爾來暴風ノ爲メ非常ニ減少シ郡中平均豊
反歩ノ収量凡壹石三斗餘ニシテ九月頃ノ見込ニ比ス
レハ壹段歩ニフキ三斗餘ヲ減スルニ至ル

麥ハ十月以後兎角雨降り驟ニシテ播付時期ヲ失ヒレセ
不勲中ニモ郡中南部ノ村落ニ於テハ未タ播種セサル
モノ十中ノ六七モアリテ目下ノ景況ニ因レハ年内ニ播
種濟覺束ナキ見込ナリ(十二月十三日東北條郡通信委
員竹内景明報)

稻作實驗種子薄蒔ノ結果 本年初メテ種子ノ薄蒔ヲ試
兩縣ニテ未タ播種セサルモノ多シ其播種中種セシモノ
ヲ見ルニ發生ハ散テ平年ニ異狀アルヲ見ス

蠶業ハ三分以上ノ減額ナレバ相場ハ平年ニ比シ三割以
上ノ騰貴ナルヲ以テ諸リ損得ナキカ如レ

本年諸作物中被害ノ爲メ稻作ハ平年ヨリ三分以上大豆
ハ貳歩以上小豆ハ凡ソ六歩縮ハ三歩蒔蒔ハ四分其他ハ
貳歩以上四歩以下ノ減獲ナルヘレ
山林ニ關スルモノ即チ松茸發生ハ平年ヨリ三歩以上ノ
増收ニテ總高凡八百貫位ナリ價格ハ三割以上ノ下直ニ
テ收納金高凡九拾圓、是レモ得失ナキニ似タリ

開田村上市瀬村下市瀬村西河内村日野上村ハ繼テ鄰村
ト大同小異ナルヲ以テ畧ス(十二月七日真島郡中村外
十五ヶ村通信委員堀彦太郎報)

十一月二十八日日本郡星田村ニ於テ星田西水砂兩村聯合
農談會ヲ開クニヨリ當衝ヨリモ備員一名出張セシニ當
日出會セシモノ十八名ニシテ勸業委員會頭トナリテ左
ノ事項ヲ談話セリ抑モ本會ハ未タ創始ノ儀ニツキ著シ
キ長談ヲ得サレ漸々好結果ヲ得ルニ至ルベシ因テ左
ニ其ノ概略ヲ報ス

星田西水砂村聯合農談會筆記

一農產物保護法
近來窃盜頻りに徘徊シ田圃其他野先ニ在ル農產物ヲ

一麥作培養耕法

川上希一郎曰麥作ハ寒中土地凝結セルキハ必ス水肥
ヲ施サ、ルサ長トス通常農民ノ爲ス所ヲ見ルニ淡雪

竹井徳幸曰或ル老農ノ言ニ渾テ麥ニ鮮油粕其他ノ肥
料ヲ施スニ播種ノ際一時ニ施スヨリハ反令少量ノ肥

一種苗交換法

川上生太郎曰凡テ作物ハ全一ノ地質へ多年全一ノ作
物ヲ栽培ルハ宜シカラス必ス地質ノ異ナル地ニ移

十一月廿八日山田村通信委員窪屋耕一郎報

○暴風ノ景况 十一月十八日午前ヨリ微風吹初メ正午
ニ至リ東北ノ風兆々顯ハシ漸次其勢ヲ増シ黄昏ニ至リ

美作國東北條、勝南、勝北ノ四郡ニシテ家屋全潰或ハ主
木ノ損害寡シトセス尤モ稻作其他秋作物ニ於テハ收穫

○種苗交換會

左に記せる己英田郡農事獎勵會へ出
張せし本課員妹尾赴村上長造の役命せしものなり

英田郡農事獎勵會は該郡有志者の發起により十一月一
日より三日まで該郡倉敷村安養寺に開く其出品の總數

五百八十四種其品類と通觀するに英田郡山城村春名勸
勝南郡稻穂村安藤近太郎出品の米國種「コロライナ」稻

を本春農務局より頒布されしものにして粒實稍や長く
光澤美にして品位頗る佳良なり其收量も亦た多しと和

氣郡吾木村高原嘉彌太出品の稻名名豊年坊と稱するは
同人より撰種して得たる處のものにして收穫多量ありと

云ふ英田郡日持村梅本嘉市出品の稻名名高千穂と稟長
くして株大ふ穂亦頗る長大にして粒實稍や密着す想

ぬり收量多るるへ同人出品の牛蒡は別に大あらばと
雖とも該地の特産ふり香味殊に美ありと全郡大作繁

吉出品の長蕪薯は形ち蘿蔔に類し其氣味頗る良好なり
と云ふ同郡稻野村福島長竹出品の両頭薯と薯蕷の一種

窪屋郡種苗交換會は十一月十五日より全十七日まで三
日間其第三回と全縣倉敷村警願寺に開設せり出品の惣

數二百五拾四種其品類多くは稻種にして交ゆるは全地
著名の綿花と以て就中白樂市村佐伯常太郎所作の晚

稻名名池田穂羽島村岡本參造所作晚稻八重穂富井村内
藤駒次所作晚稻名より出上等何れも出品中優等の

地位と占るものにまゝ米質善長従て收穫も多量なるへ
とと思惟せり抑も本會は縣衙及び勸業委員の斡旋保護

其宜れと得るに依り人々本會の利益不助ことと知悉し
されは將來本會の益隆盛に至るは疑と容れざる所あり

因ふ記に本年は高梁川破堤の爲め稻米多く浸水となり

為め其出品の夥多ならざりしを憾むへい
 本課員徳田富廣村上長造が下道郡種苗交換會場へ臨
 席せし復命書と左に掲ぐ
 下道郡種苗交換會は該郡有志者の協議により成立し
 るのよして十一月二十六日より三日間該郡有井村に於
 て開く其出品惣數貳百五十八種内窪屋郡よりの出品百
 四十六種而して其出品概通觀するに窪屋郡よりの出品
 の概去て佳良のもの多く下道郡よりの出品を水害の爲
 め充分の良種と出ること能えざるが如し其出品の一二
 不就て評と下すとせらる下道郡岡田村石門和三郎出品の
 稻号名一本草を苗代床直志の法より培養せよものに
 去て其株實に巨大にして頗る多量の收穫あるへまと思
 へる然れども惜かき水害と被りて充分の收穫と知るに
 を由り同郡尾崎村高見良藏出品の稻号名霜冠りの窪屋
 郡沖村三島岡大郎が多年各種と試作の上發見せし處の
 種類にして品位の佳良ならずといへども收穫頗る多し
 と云ゆ本年初めて之と下道郡に試作せしは最初成長
 惡くして殆んど之と抜き捨り他苗と挿まんとせし程
 なり去が漸次成長し同人が作付せし中にて最も收穫多

しと云ふ本會の出品せしもの之より同郡上二万村山邊
 青吉出品の唐薯と稱するは即ち九州薯、唐人薯、又又大
 師薯と稱する甘薯の一種にあらず其味を甘美ならずとい
 へども能く貯蔵に堪へ挿苗の際枯死するもの少く且は
 收穫殆んど通常の甘薯の倍に倍れれば若し盛んに之れと裁
 培するときは常食の幾分と補給に至らん又た在來種瓜
 味薯數種の出品あり聞る如くんを壹反歩付六七百貫
 目の收穫にして壹貫目の價金三錢五厘位なりと若し洋
 種の佳良なる瓜味薯と栽培せば尚ほ大に其利益と増は
 り至らん同郡上二万村鹽田柳太郎出品の西洋牛蒡と附
 記ありしを英語にて「アーチキョーク」我邦よく之と朝
 鮮薯と稱するものにして其根稍や牛蒡に類すと雖とも
 該種を其根と食するものにあらずして葉の未と開るさ
 る前其花薺の下にある内部と食するなり今本會の景
 況と通觀するに未と充分の整理に至らざる如しと雖
 と云蓋本年は第一回の會と云ひ且は水害の後と受け
 ざるを以ての故にして將來益々本會の隆盛に至らん
 其功と見るに至るや期して待へばなり

○各府縣下著名種苗

(承前)

宮城縣下著名種苗取調表

種苗名稱	方	言	所産郡役所名	全	上	位	置
稻	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具豆理郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
大豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
小豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
赤豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黑豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
粟	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黍	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
稷	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
高粱	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
蕎麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
燕麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
粟	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黍	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
稷	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
高粱	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
蕎麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
燕麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡役所	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡

福井縣下産著名種苗調表

種	苗	産	地	數量	代價	算	郡	役	所	位	置
稻	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
大豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
小豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
赤豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黑豆	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
粟	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黍	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
稷	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
高粱	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
蕎麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
燕麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
粟	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
黍	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
稷	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
高粱	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
蕎麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
燕麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡
麥	早中晚中早中晚中	早中晚中早中晚中	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡	伊具郡

州住吉ニ到リテ鯉魚飼育ノ法ヲ受ケ爾後専心
育養ニ従事シ去ル十六年水産博覽會ニ於テ獲賞ヲ受ケルノ榮ヲ得
タリ左ニ記スルハ即チ同ノカ四十餘年間鯉魚セシ處ノ方法ナリ

親鯉撰擇の方法

親鯉ニ其色赤と黒とに論ズルニ雌雄并量目四五百目乃至
壹貫二三百目迄のものを以て其形状丈短く幅廣く唇
へは南海に於て漁收する所の金糸鯛と云ふに似て服皮
の至薄且軟柔なるものと良と爲りて鯉の雌雄と見分
くるの方法は先づ試みに手と以て鯉魚の腹部と軽く壓
下するに雄魚は乳汁様の液と漏泄せざるものと雌魚
は鱗と保ち雄魚に比すれば腹部稍膨大なるを以て少く注意を加ふる
は大概識別し得へし然りと雄魚も亦稀には後部膨
大なるものあるを以て必ず前の如く試むると良とす且
當初親鯉と求むるは山城國伏見或は攝津の住吉其他
渾て氣候温暖の地方より良とす

雌雄交接及産卵の事

雌雄交接及産卵に列に二坪乃至三坪程の小池と堀
鑿し即ち之と産み池と名く其構造深さ一尺二三寸に

認るとれ速に親鯉ヲ捕取して平常放養する處の原池
へ放逐せしめ倘し依然産み池に置くとれは故の水草に
附着したる卵と嘔吐するの懼あり而して壺尾の産出
したる卵より發生する所の鯉兒の數と算するに八万
乃至拾万許とす

鯉卵孵化及養育の事

前項に記する如く親鯉と原池へ放逐したる後産み
池の溜水と深さ五六寸許に減し二日乃至三日目に至れ
ば其水草或は柳の毛根に附着したる卵より二箇の黒點
と現出せしめ即ち鯉兒の眼あり是より一日乃至二日と
経れば全く孵化す但し最初産出の時より孵化するに至
るの間池水の寒冷ならは又温暖過ぎざる様篤く注意
すると緊要とす若し氣候不順より西北の冷風と吹
れ起るか又冷雨と降す或は非常の温暖と催は等の
不幸に遭逢するおとあれは卵が腐敗するの損害と
被ゆるへは鯉兒孵化の後四五日と経過すれば蟲餌と投
して食せしむ(此蟲は「乳」と云ひ「シロコ」と稱す鯉兒
と養育するには欠くべからざる餌料なり若し此餌を
犯ときは鯉令幾許の鯉兒と發生せしむるに其生育する

て其底は赤粘土に石灰と混して能く練り堅めたるもの
以て密塗(俗に之を「シロ」)し蓄水の泌滲せざる様に
なせ置き
而る後能く石灰の滲汁と去るへし其法蒸煎したる生茶
の汁と以て三回程洗滌し而して清水と注入し一日に一
回宛其水と更替せしめ三四日と経過し溜水深さ壹尺許
と定量とし四月廿五六日の頃ふ至り親鯉雌雄各壹尾宛
と定量とし四月廿五六日の頃ふ至り親鯉雌雄各壹尾宛
大抵同寸同量のもの擇びて放ち入るへし但し雄魚雌
魚よりも小なるものと雌魚壹尾に雄魚二尾と放ち良
とす而して赤色の雌魚同色の雄と接合すれば悉く赤色
の兒を生じ黒と黒とと接合すれば悉く黒色の兒を生ず
れと之中には赤色の兒あり又赤色の雌に黒色の雄と接
合すれば赤黒半駁の兒(種を五分)を生じ産み池へ移して
より三日乃至四日目に至り即ち母魚産卵の期に臨み烈
敷騒擾と起るに當り藻又は「スナ」杯の水草若しくは柳
の毛根等一握の量を取り束ねたるものと幾束とよく水
面に浮へ置く(俗に之を「籠」といふ)とれば母魚其卵と此水草に産
付くるなり其産卵は大概午前六時頃より午後二時頃迄
に亘るものなりと雖も稀に夜中産付くるものあり
にあらざれば毎意と加へざる可らる既に産了りしと

殆んど稀なり是れ乳の名ある所以なり此蟲は人工と以
て發生せしむるを得へし其方法は詳に下項に載る
と以て茲に贅せず爾後十五六日間此蟲のみを以て
飼養し凡二十日目は至りたれ「シミ」と云ふ蟲と食
せしむ此蟲は形状恰も子子の如くにて牛馬の糞と貯
へ置けり發生するなり三十日に至りたる頃は土飼と
投す即ち塵埃杯ある最を不潔なる處の土塊と掘取池
底一面に撒布せしめ土中に混じる諸小蟲と啄喰る
ものなり元來此土飼なるもの之當時飼養のみの目的
あらば畢竟鯉兒としく飼と求むる習慣と養成し他日耕
田へ放養したるとき求飼に容易ならぬ爲めたり
併なうら其土飼に之を食せしめは米の煎粉又ハ作り糲の
能く舂精したるものと蒸煮して食せしむ如斯にして四
十日乃至五十日にも至れば鯉兒凡五分乃至六分位迄
成長す此節即ち六月中旬の頃種秧ある耕田へ放養
は此時壺尾の價二厘と定むるに九月差入の頃に至れば
丈四寸乃至六寸迄成長し壺尾の價平均壹錢と得る
に難きも非は但し成育の平年七八歩即ち百尾に付七八
十尾に當る且鯉兒孵化の後池の中へ種々の毒蟲と生

經兒と殺傷し容易ならざる損害と采すことあるに當り常
注意を怠る可らず

飼養と遊る事

乳一名「ワロコ」と云ふ此蟲と發生せしむるに先は深
き壺尺五六寸許の小池と掘り其底と赤粘土若し赤土を用
と用ゆることは虫ふあし水充滿少くも更替せざる様に
の生ずることなしふあし水充滿少くも更替せざる様に
し之れに多く馬糞と投し置れ日數十一二日と経過れば
は馬糞一面蟲と生ず其形狀恰も蚤の如く唯其色白きの
異なるのみ

○歌醫 十一月二十一日より全二十四日に至る四日間
縣下岡山區岡山天瀬明習館に於て第二回歌醫開業試験
と舉行せしに受験者拾六名の内左の三名及第せり依て
全月二十五日試験主事本縣屬野田蕪親及試験委員歌醫

○十一月 中氣 候表

石	地	華氏	温度	最高
岡	山	六	十	七
津	山	六	十	七
岡	山	六	十	七

農商工月報

凡例

- (一) 此月報に汎く農商工に關する事項と集め専ら營業
者の參考に供するものなれば敢て新奇と責ぶもの
に非ざる既に他の報告類に掲載あるものと雖も
採録することあるべし尤も取ると捨つるとも其人
の意見に任す
- (二) 此月報に通俗な言とまれば成るべく平易の語と以
て之を記す
- (三) 此の月報に姓名と記しその私説も其當否本課の
保証する處に非ざる者宜しく取捨すべし
- (四) 何人にて農商工事に關する論說報告又は質問等
の書と本課に送る時之と取捨採録して採評と求
め又本課に於て答辨することあるべし
- (五) 有益の論說報告と寄せざる人へも其報酬として月
報費部又も數部と贈與するものとあるべし故に寄稿
者も其住所姓名と明記すべし

學士光岡金雄兩名連署の上夫々及第證書と附與せり

備前國赤坂郡岩田村士族 同國備前郡可賀上村平民
加賀善代次 南木 春治
同國岡山區岡山下西川町士族
三宅重太郎

○本課記事

十一月一日妹尾備村上備の種苗交換會并農事獎勵會
へ臨席の爲め英田郡倉敷村へ出張全五日歸應指原屬は
川上郡下原村椎草試作用材槌印打渡并に阿賀郡菅生村
桑林實視として全三日出應全十一日歸應全十二日徳田
屬之荒川書記官廣島縣へ出張に付隨行全十九日歸應吉
岡備大口備之鑛山借區試掘検査として全十三日管下三
ヶ國巡回全十六日妹尾備山川備之種苗交換會へ臨席の
爲め窪屋郡倉敷村へ出張全十八日歸應徳田屬村上備の
全上交換會へ臨席の爲め全二十六日下道郡有井村へ出
張全廿八日歸應門部屬内山屬の第二回關西聯合府縣共
進會開設に付廣島縣へ出張中の處全三十日歸應

同	最	低
五	十	度
四	十	度
四	十	度

明治二十年一月十五日印行
第十二號 岡山縣第一部農商課

目次

- 農 業
 - 農談會の功用
 - 養病講建筆記
 - 桑樹栽培問答
 - 田圃害蟲驅除法
 - 養蚕組合員
 - 神力稻
 - 稻種
品評會
 - 茶樹栽培振起の方法
 - 諸作物の景況
 - 種苗交換會ノ景況

統 計

○十八十九兩年外國貿易比較概表

商 業

○各地物價 ○岡山米商會所報告 ○金融

○本課記事

○氣候表

農業

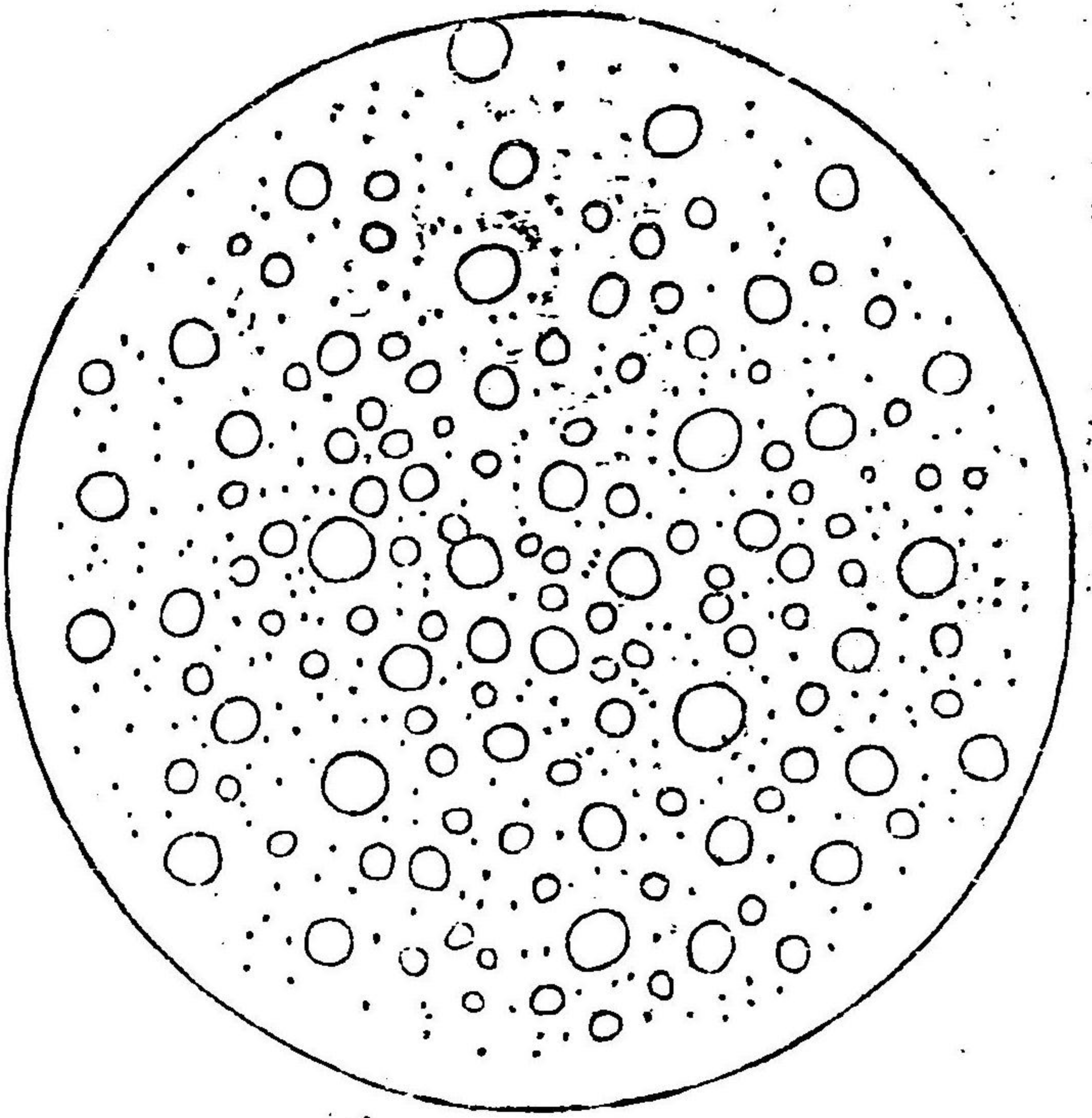
○農談會の功用 農談會とわんまう常は經驗しる農事の手柄と談話し或も疑わしれたとあれば之と質問し裨益ある知識と互に交換するの場所と説くも抑

の功と見ると又い何地の種子と栽培して多分の収穫と得たりとて談話の序に述べると聞か其肥料と施ふ其種子と栽培して圖らむ益と得しと其例少ならむ

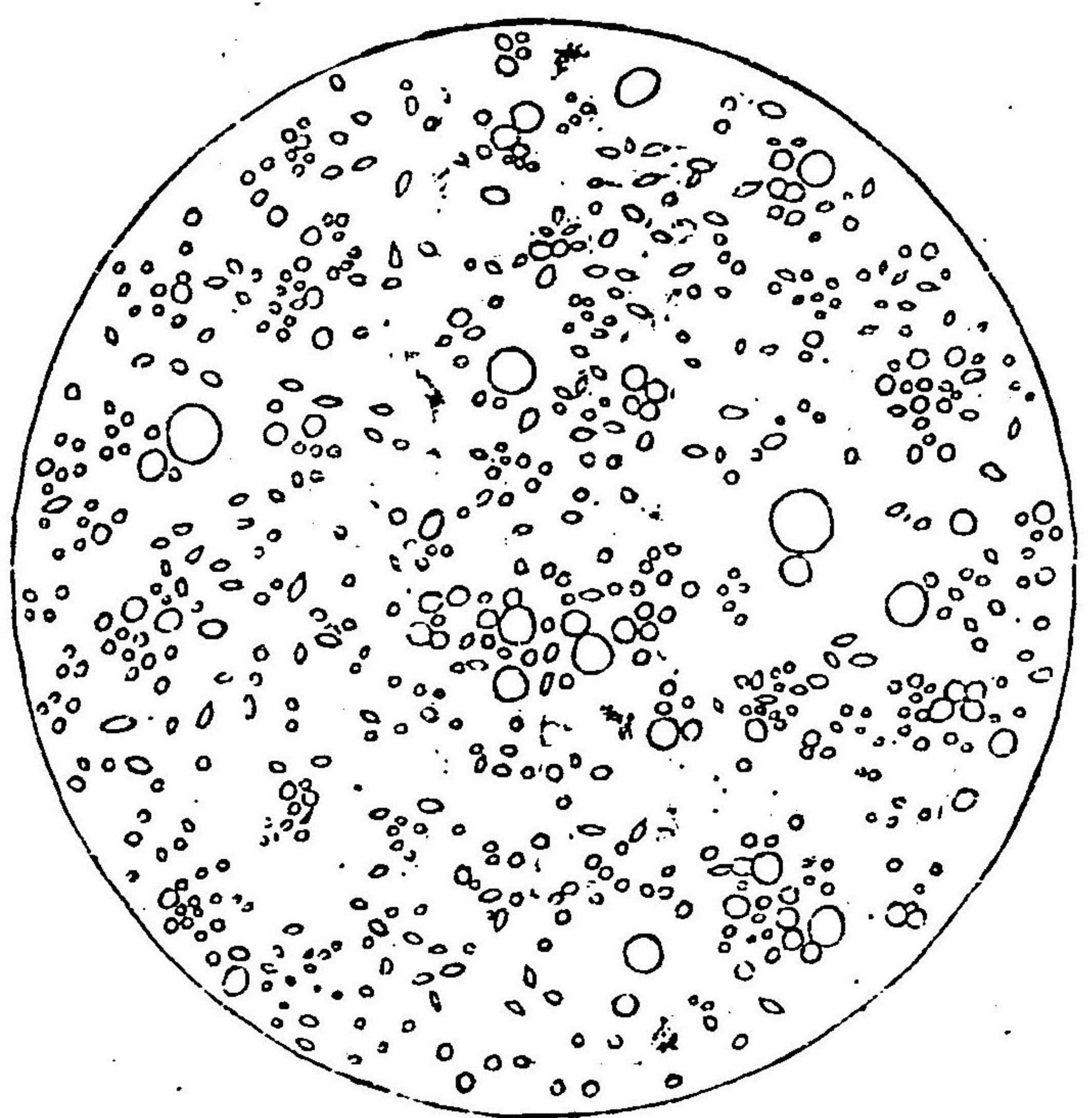
上に一夫論を坐しとあり奥州人上州人に言て曰く養蠶の上作すと否とは飼育の術如何にありて蠶種の良否に關せんと上州人曰ふ否々飼育其宜しと得る

らんには二石以上は敢て難しとせざるが今地收穫と以て推すとれたる從來上作とせる一石は寧ろ半作として可なり況んや全國平均五斗の收穫とすら難しとする所

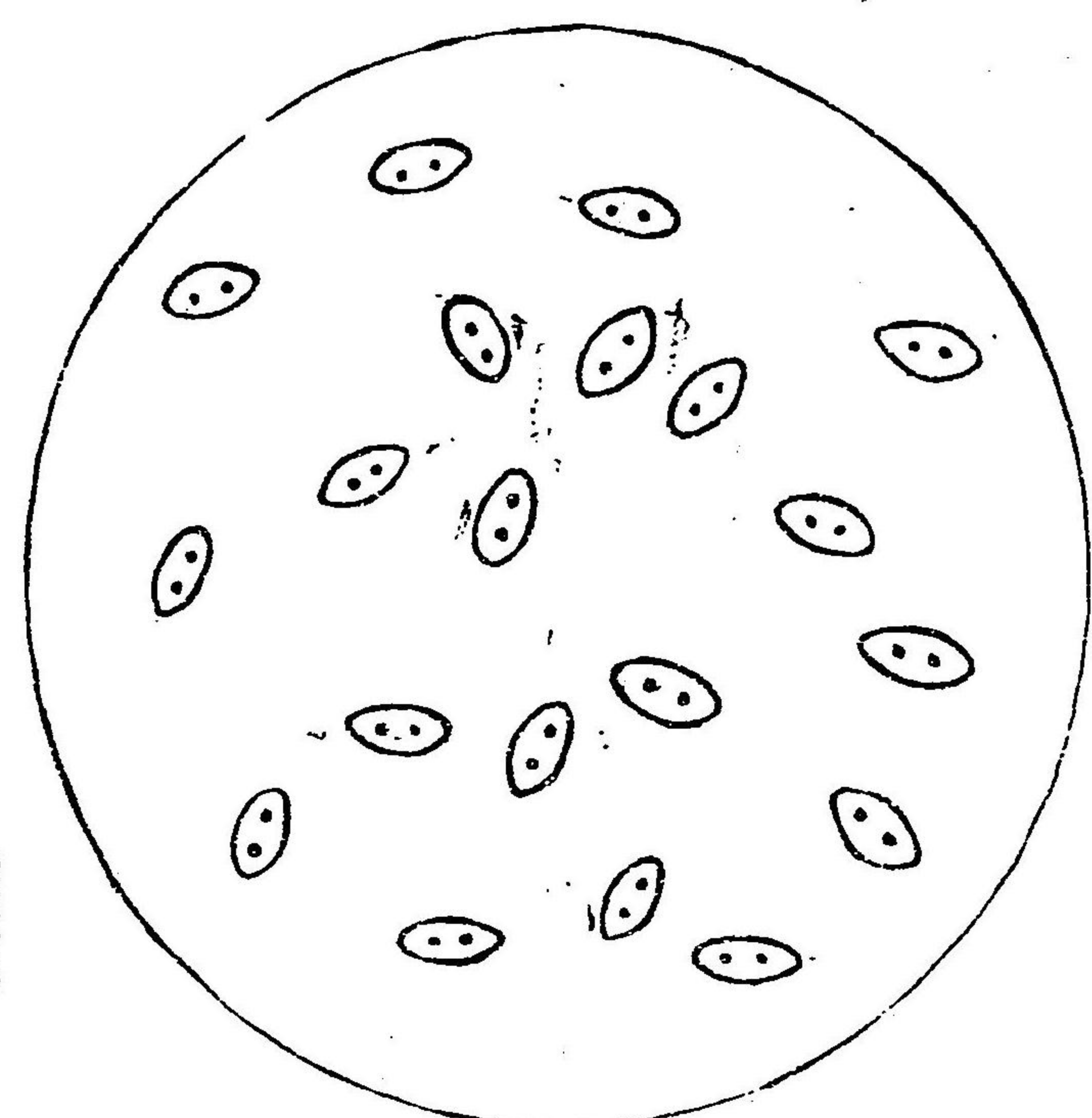
第一圖 健康の産みたる卵を見たるもの



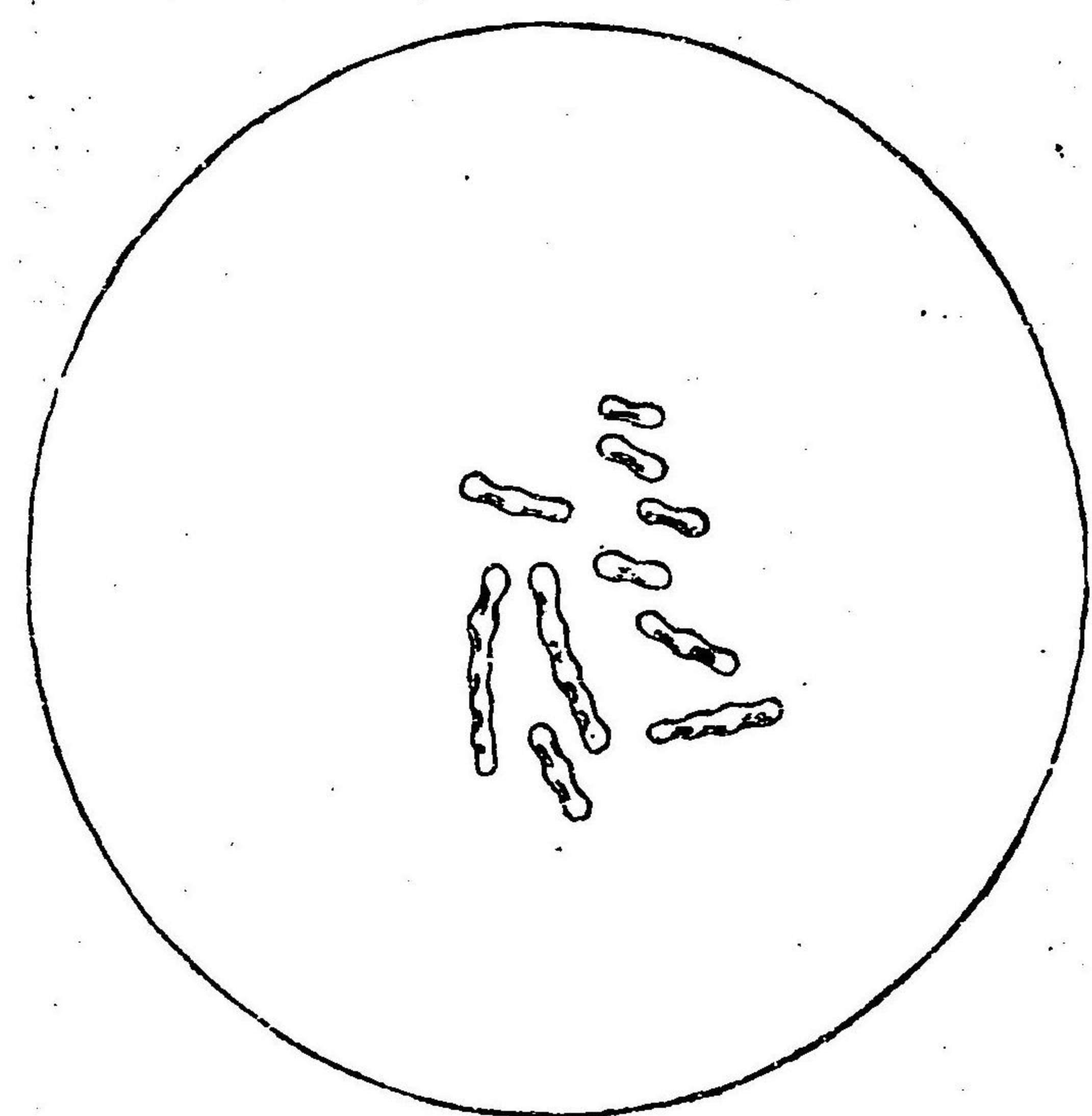
第二圖 遅く上葉したる蛾の産みたる卵を見たるもの



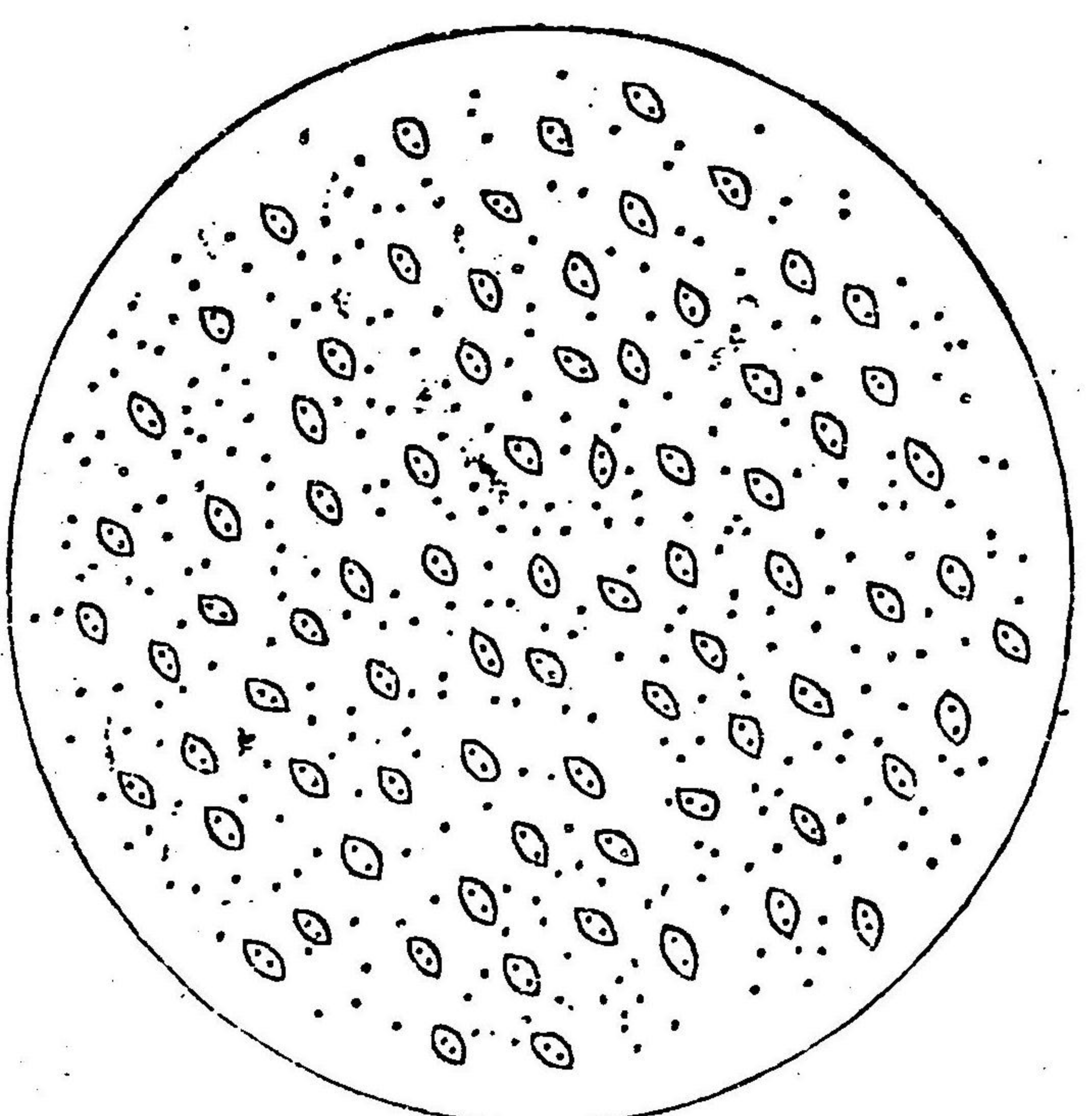
第三圖 微粒子を千倍内外の顯微鏡にて見たるもの



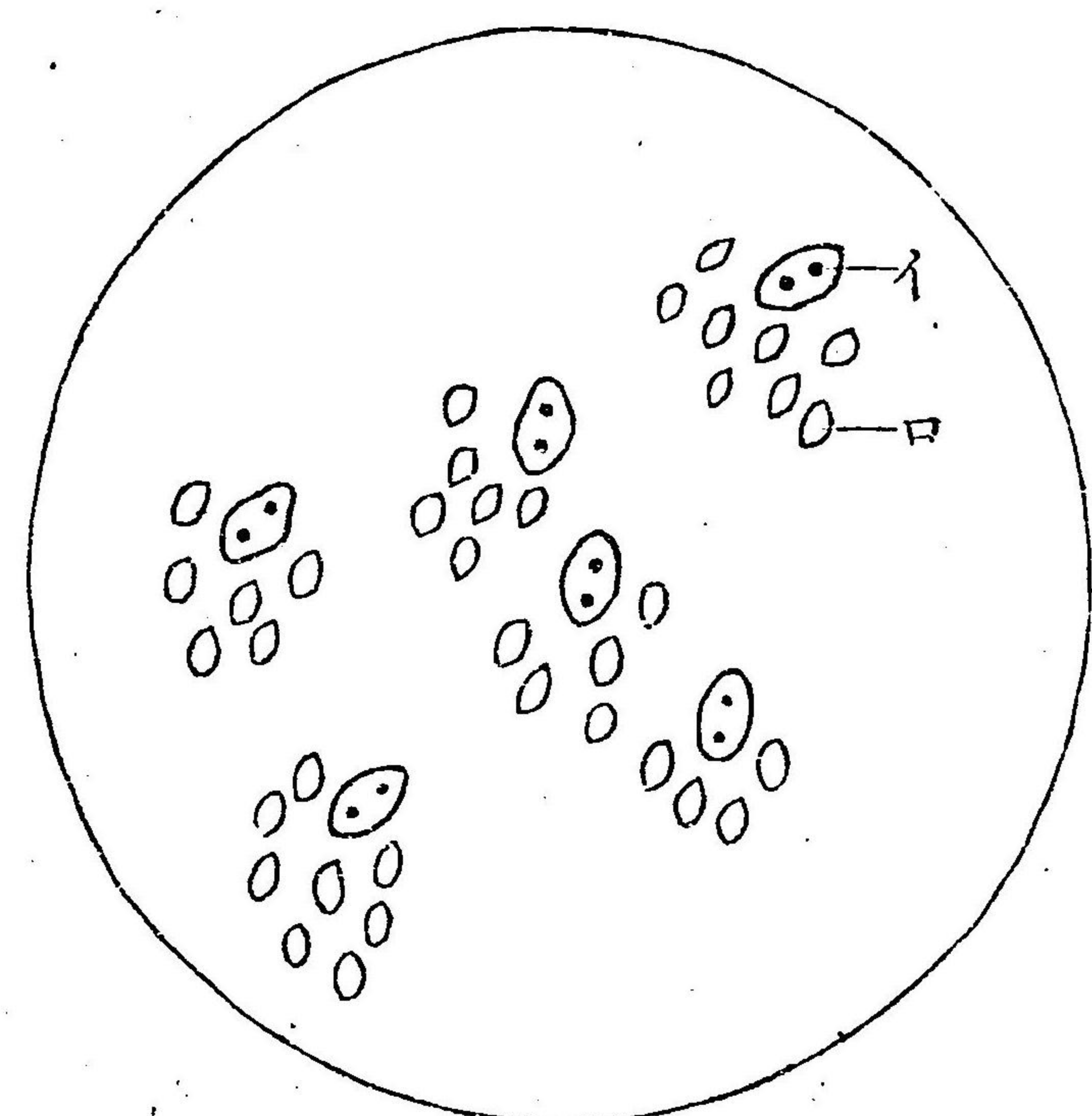
第四圖 卵中の病毒長するに従ひ核部を生じたるもの



第五圖 細菌の体を見たるもの



第六圖 微粒子群の状を示す



○桑樹栽植問答

第一問 桑園をなすに於て地形及び地質の如何なる場所と可とするや

答 地形は平坦にして四境開達大氣流通長き所と擇ふへい地質は河川の近傍にして砂交りの地又粘土と砂礫とを混合したる真土にして高燥あると良きとす凡て山原郊野を論なく高燥開潤の地をれば桑園に適せすと謂ふべし

第二問 桑樹の早中晩の種類幾種ありと聞く其中佳良なるものは何々の種類なるや

答 桑樹は其種類極めて多しと雖とも良好と認むる早中晩の種類と譽くまは概ね左の數種に過ぎざるへし
萌芽極めて早にして以て採蠶と飼蠶へし葉形大なるを以て摘採に便なり然れども稍伸長するに隨ひ其葉強硬となり二齡後の蠶飼に過せず近年に至る所として此桑と植へざる地所きの有様なり
此桑を萌芽に先ちて花を生ず萌芽の期に市平と同時なれども其伸長の稍緩慢なるを以

市平 長するに隨ひ其葉強硬となり二齡後の蠶飼に過せず近年に至る所として此桑と植へざる地所きの有様なり
此桑を萌芽に先ちて花を生ず萌芽の期に市平と同時なれども其伸長の稍緩慢なるを以

桑

節曲

此桑の萌芽は前二者よりも一層早く養蠶家必用の種類と認められども其葉極めて早く強硬となるを以て二齡後の蠶に與ふるに適せず

青木

其葉柔軟なるを以て二齡より五齡に至るの飼料となすべし

小牧

葉形大にして枝條能く伸長す二齡より四齡に至るの飼料に適せり

青莊

三齡より五齡に至るの蠶飼に適せり極めて大葉なり

赤木

葉形大にして摘採に便なり然れども其葉強硬となるを以て五齡の飼料に適せず此桑を瘠地に能く成育す
萌芽極めて遅くして霜害を蒙るを以て一名霜瀆りと云ふ葉小なれども枚量多し晩桑中の良種なり
高助 萌芽十文字より稍早し葉形大にして厚なり

桑

尾島 高助に似て葉稍小なり

葉形小にして薄かれと枝條と生するおと
密よあて枚量少なるら

第三問 桑樹の植付けに付其方法と一通り承り

答 桑樹の栽植三式あり曰く根刈曰く中刈曰く高木是
なり根刈といふ土際より截り採るもの中刈といふ一尺よ
り五尺までの所より截り採るもの高木といふ自然の伸
長に任せ枝條と截らすして葉のみと摘採るものと
謂ふ以上の三式を専ら土地と氣候とにより區別ある
ものなり例へば降雨少なく霜雪薄れ地方にては根刈
と以て便且利ありとす然れども之に反して降雪深く
地上氷荷と結ひ若くは萌芽の際霜害と被ぬり發育に
障礙あるの如き土地にては中刈又は高木となすと得
策とす否得策と謂ぬにあらす萬己むと得ざるの策
あり是等の障礙なれ地方ふくは根刈仕立となすの便
且利ある若るさるへ因て左に根刈桑の栽植法と
一通り述ぬへし

根刈桑の栽植法は先づ桑苗と一尺四五寸に截り植へ

又秋季九月下旬より下葉の落ちんとする期と目的と

一助ありと云
平地に畦を作るには専ら大氣流通光線の透徹と主と
すへ又南向北向の斜面地は東南に西向東向の斜面
地は南北に畦と作ると法とす

株と株との距離は二尺五寸乃至三尺畦と畦との間の
五尺乃至六尺即ち一段歩に付六百本より八百五六十
本と目的とあすへ尤も土地の肥瘠と桑樹の種類と
によりて實地に就て參酌あるへし

第四問 早中晩桑植付の歩合を通例幾許位にて可ある
や

答 早中晩桑の栽植は蓋種紙十枚掃に對し一町二段歩
の桑園と假定されれば大約二段歩に早桑と四段歩に中
桑と六段歩に晩桑と栽植せし適當なるへと然るとき
は此歩合は早桑二分弱中桑三分強晩桑五分とす

第五問 桑樹の培養は一年幾回にして可あるや又土地

んと欲する所の穴と深さ二尺經り一尺二三寸程に穿
ち穴底に腐き土又は芥土或は堆肥の類二分計りに練
四五勺位と混和し之に土少許と混して其中に苗の頭
を地平より二三寸程を低するやぐに植へ土を容る
おと凡そ五六寸に穴の上部八九寸許りを空所と
なし程能く踏付け置くへと而して夏季土用前に至る
塵芥等の腐敗物と根邊に埋め一様ふ土と覆ふへし斯
くはれ土用中土際の根に鬚根と生して成長宜し
るのなり而して植付るの翌年萌芽の頃幹と土際より
截り取るへと又降雨の際砂泥ふて株の埋没せざる地
若くは天牛蟻等の害多れ地は地平より二三寸下部に
て截り取るを良しとす然れども截採りと同時に周圍
の土と除去しと株と露えし置くへし「冬季の栽植は
幹と截らすして萌芽の際にて截ると良しと云は若し幹
と截りし植付くるよは其截口へ土と覆ひ萌芽の際に
方り其土を除去すると可と云は」桑苗栽植の時期は冬
季に於ては落葉より氷の將に結ゆんとする頃までと
春季に於ては融氷より芽の將に萌さんとする候と良
しとす

により肥料に差異あるへし如何

答 培養を一周年間三回に可を先づ第一期は春季
彼岸頃第二期は截桑後第三期は冬季降雪前とす耕耘
も亦此三期培養前に於てすへし

肥料を砂交りの地は其効驗速なれと云は粘土、粘土の
如きは功能遅くして且少なれとのなまは多量の肥料
と要し硬土質、石灰質と含有する地には軟膨肥料(糞
、糞、雜草、等)と用ぬへし、墟土、輕鬆土、は腐敗力に
乏乏ければ成るへく土塊と粉砕し腐敗し易れ肥料
を施用せると要し又鹽類肥料は其年の成長は驗著な
るも他日凋瘦の憂あるものなまは用ひざる方養成を
る凡そ肥料と施さんとするには先づ其土質と相して
其土に之し性質分肥料と給するにあらざるは多量
の經驗にあらされれば能くし難れものなり蓋桑樹は土
質堅硬ならんよりは寧ろ軟膨なると要す故に前陳第
三期の耕耘に樹下一尺三四寸を深く翻き起し上部
の根と截り根邊の土と除去して根節と露出すると要
し又第一期の耕耘は町際根節に土と覆ひ第二期

九

ふたては刈株の間と悉皆掘起し表土と軟膨ららむへ去肥料の主なるものと擧ぐれば酒粕、幹鰹、鮮、大豆、米糠、人糞、糞、鳥糞、青草、及び牛馬羊豚の糞等なり此中青草は堆糞となし其他は水糞となし(馬糞は其儘)施すと良しとす宜しく土地の便否と考へ廉價にして功能あるへき肥料と撰むこと桑園經濟の主眼なり如何に切驗著るべし肥料なりとも得失購ひさるか如き真正の裁桑家よあらざるあり庶く此點に厚く注意あらんか(第二回關西聯合府縣共進會(衛生系審査官高橋信貞氏述))

左に記するは本月廿日邑久郡に於て勸業談話會ノ概畧ふたて會長黒田久一郎より届出さるに付談郡後所より報道せるものなり

○田圃害虫駆除法 「ズキ」蟲「ハマキ」蟲等の如きは其母蟲と殺すに若うに故に枯草の際畔に散卵せる所のものを必ず明松に焚き殺すへ十六年第三十號農商務省報告と開するに驅除法あり九月頃竹の長さ四尺五六寸のものを取り辻と割りて「サ、フ」状の如く一捲ぬに粗土と以て一夜八時より十二時までの間四五日間毎夜其上ふ火と焚く壹町間に三本位死すれを群蟻集合火るとと勉むべし

養株豫防法 養株の原因は「マイナエ」肥料と多量に施すり或は「イナエ」蟲の害に罹るか或は土質に依りて生れるり或は稻に又根ありて生し或は粉と粗糞にまぜり此害に罹り或は粗糞の稻に生し或は水排け惡しき地に生し且は苗代地に依りて生れるものある如し之と豫防するは「イナエ」蟲の害に罹るものは早々「テタマ」等に捕殺し可く荒れた稻、一本稻、二本稻等の如きものを作るべからず粉と藪くりに厚く藪くべし水多れ土地ふり養株の多きものは其の地と夏、乾燥にべく苗代より養株病の發る恐あるもの其地と吟味して替ゆ可く且は養株ふ罹りし田地或は苗代の畦畔等は枯草(十一月十二月等の候)明松よて害蟲と焚殺すへし肥養株に罹るもの根切鋏にて四方の上根と切るべく浮地の養株には石灰と入るべし且は田植の際餘糞と去置き二番除草の節田面と視れり葉ふ黄色褐金の斑点等と顯れり是れ多くを養株ふれば直に抜き取りて植へ替ゆべし

種苗園及試作園開設法 此問題の當時必用なる言と述

ふ入りて死す此法取りて實施せり大に功あるへし夫れ蟻一羽と殺すは數百の蟲と殺すに全一故に農家の毎戸必ず之と行ぬて驅除せり蟲と消滅して害と免るへし因に云ぬ舊藩の時地方皆を夏虫送りと稱して名主、年寄、五人組、判頭、農夫等寄り集ひ僧と招き經と誦ふ蟲害驅除と訴へ民費冗多なりしを開明の今日人皆を兒戯となすに至り

海産物繁殖保護法 「タ、キ」網「引網」「ウタセ」網等は魚兒と取り盡し害あると等談話せりと雖も去り連之る籍制の法と設くれは一利一害相伴ぬ而己ぬらむ調査も充分に行届き居らざれば更めて綿密なる検査と遂げ再び本會の問題と爲るに決して退散せり

○蠶桑業組合員 當取締り於て調査せし蠶桑業組合

ハ瀟湯會員希望の餘設立することに決り而して費用と要するは有志者の義捐金徵集の方法其の組織計畫起艸の上再び本會の問題とあすこととあて四名の起草委員と撰擧し後會に提出するに決せり

麥培養法 油粕二玉位と厩肥とし九月土用より五日間程と歷て藪くべし而して麥種の善と熟と善なる射越撰(長濱村地方産す)景清麥と撰するもの等と撰取にへし射越撰は強固にし霖雨に耐へ上年ふた收穫四石餘と收め景清麥と撰れるものは味美なれとを並聊う弱く上作と爲すとを三石に登るとを又風雨に遇へば倒るゝの恐あり而して肥料を乾燥しるときに非らざれば施すべらむ特に水肥の如きは濕氣多れ時を功なすとす

山林改良法 栗、梅、柿其他良材の苗と漸次山林に繁殖せしめ以て救益と謀るへし而して之と繁殖せしむるに最初の費と耕地に植ふ發生後貳三尺となるに及んで之と山林に移植すへし後米山林は自然に任して培養繁殖等とあさき管に薪材と求むるのみとて他に救益なれもの、如去故に獎勵以て樹木の栽培と謀り遺利と救む

ハ瀟湯會員希望の餘設立することに決り而して費用と要するは有志者の義捐金徵集の方法其の組織計畫起艸の上再び本會の問題とあすこととあて四名の起草委員と撰擧し後會に提出するに決せり

麥培養法 油粕二玉位と厩肥とし九月土用より五日間程と歷て藪くべし而して麥種の善と熟と善なる射越撰(長濱村地方産す)景清麥と撰するもの等と撰取にへし射越撰は強固にし霖雨に耐へ上年ふた收穫四石餘と收め景清麥と撰れるものは味美なれとを並聊う弱く上作と爲すとを三石に登るとを又風雨に遇へば倒るゝの恐あり而して肥料を乾燥しるときに非らざれば施すべらむ特に水肥の如きは濕氣多れ時を功なすとす

海産物繁殖保護法 「タ、キ」網「引網」「ウタセ」網等は魚兒と取り盡し害あると等談話せりと雖も去り連之る籍制の法と設くれは一利一害相伴ぬ而己ぬらむ調査も充分に行届き居らざれば更めて綿密なる検査と遂げ再び本會の問題と爲るに決して退散せり

○蠶桑業組合員 當取締り於て調査せし蠶桑業組合

員本年本月の現員左の如し

第一部	岡山區、御野郡、津高郡	三拾壹人
第二部	上道郡、邑久郡	三人
第三部	赤坂郡、和氣郡、磐梨郡	四百拾四人
第四部	兒島郡、都守郡	一人
第五部	賀陽郡、下道郡	拾一人
第六部	窪屋郡、淺口郡	無員
第七部	小田郡、後月郡	拾二人
第八部	上房郡、川上郡	三拾四人
第九部	阿賀郡、栢多郡	三拾五人
第十部	西々條郡、西北條郡、東南條郡	七拾六人
第十一部	久米南條郡、久米北條郡	貳百八人
第十二部	東北條郡	七拾三人
第十三部	勝北郡	拾六人
第十四部	英田郡、勝南郡	百九拾八人
第十五部	吉野郡	八拾二人
第十六部	大庭郡、真島郡	二拾八人
合計		壹千貳百貳拾五人

十九年十二月一日

岡山縣農務課取締所報

○神力稻 兵庫縣播磨國揖西郡の持産神力稻は能く水

早の害に耐て收穫多量あると云本年一月十五日印行農商二公報第十一號に掲載あるのみならず該種の善良なるとは世人の親く知る所なり余本年三月該郡勸業世話掛岩村善六氏より該種子を購求して試作し又郡内の老農にも分與試作せしめたり而其景況を視るに當り地方在米の稻種と多分異りしと云はれも寒暖の差異に因るる在米種に比すれば凡二週間の後に出穂せり隨て收入も亦遅るゝと二週間を依て本年秋收の節穂先三分方と扱ぎ取り明年下種せば早熟ふして收穫も亦多量ならんと確信す尚其詳況は追て報道すべし

十九年十二月五日

川上郡羽山村 本倉健報

○稻種品評會 本月四日同五日本郡役所に於て勸業委員と集り郡内各村の稻種を蒐集陳列して品評會を開り其出品の總數及品評等級左の如し

一等	雄町撰	西平川村	横田要次郎
同	面室撰	三和村	福田敬三郎

英田全郡茶園段別貳百廿七町六段九畝四歩

一摘芽拾三萬六千六百拾四貫七百八拾目

明治十九年概算表
但壹反歩一付平均六拾貫

此製茶拾三萬六千六百拾四斤七歩八厘

此茶價貳萬四千五百九拾圓六拾六錢

製茶百斤に付平均金拾八圓

改良收穫見込の部

英田全郡茶園段別貳百廿七町六段九畝四歩

一摘芽貳拾貳萬七千六百九拾壹貫貳百四拾目

但壹反歩平均百貫目

此製茶貳拾貳萬七千六百九拾壹斤貳歩四厘

此茶價四萬九千八百八拾四圓四拾貳錢三厘

製茶百斤に付平均金拾圓

損益差引

金壹萬六千三百九拾三圓七拾六錢三厘 益

如斯摘芽を増收するを別に大なる費用を要せず今假りに本郡内栽培労働者の人口を四千人として労働時間と一日一人に付一時間つゝ伸ばるとは一日四百人歩(一日労働時間と十時間と)を得。一ヶ年の労働日數と三

○茶樹栽培振起の方法

十九年十二月七日

津高郡役所報

二等	石巻撰	一宮村	虫明	廣治
三等	小町撰	首部村	原	九十郎
四等	鈴成	佐山村	丹原	忠八
五等	三道撰	柏谷村	森	芳滿
同	二本草	三和村	福明	淺五郎
六等	長谷川 二本草	上田西村	能瀬	通三郎
七等	二本草	横井上村	田口	金四郎
八等	頭ヨシ	建部上村	溝口	多賀三郎

本月十六日英田郡臨時農商會と同郡倉敷村假議場に開れた茶樹栽培振起の方法と協議しより其要領たるを本郡物産の重なるもの製茶よりて年々の産額拾萬斤に下らざれどは尚耕耘培養より力と盡て寒枯を、虫害、霜害と防ぎ各茶園堂反歩に摘芽百貫目と收むるに至らぬ其益なる所實に鮮少あらば今栽培に盡力して充分の收穫と得るものと否らざるものにて付て其損益と對比せしを乃ち左の如し

現今の部

百日と見做せば實に拾貳萬人歩と得べし之れと茶畑貳百廿七町六段九畝四歩に割當る時一段歩付五拾貳人餘は當る今此人列を以て耕耘培養を充るとはは救額見込の上より出るを決定して下ることをなすと信む

右の旨趣に據り會員協議と遂げざるに茶樹栽培の必要と感じ賛成の上左の如くに爲したる

一耕耘培養施肥の方法を前協議の主旨と本と各戸長役場一部落限り規約と設くること

一右規約書の謄本は郡役所へ差出を保護勸奨と仰ぐこと

英田郡勸業委員

明治十九年十二月廿七日 春名 勸報

○諸作物の景況 客月中屢々の降雨にて田圃の土壤乾燥せざりしより耕耘時機と失し従て麥の蒔付等大に其季節に後れより依て區内田圃全体の状況と視察平均するに本年作付系列十分の三四と播種するが如し而も其季節に後れたるものも業種蒔付の遅れと爲せり且つ麥作減少の爲め藁作反列幾分か増加するの状況と見るに至る然れば當年の諸作反列の平年より大に其變動と

米一麥作の如きは平年の反列十分の六七に止り而して藁作反列平年より幾分か増加するものと思惟せり廿年一月十日御野郡通信委員原房五郎報

○全上 秋季は降雨頗る頻繁にして收穫の手後れと米の期遅くおこしと雖も農民の勉強にて漸く米を平年の如く播種しより中に就て本年の大麥。一年麥等平年に比ればは稍多き有様なり十九年十二月邑久郡勸業委員正富與三郎報

○全上 本年の麥蒔付の期に方り雨降にて殆んど廿日と後れ漸く山方ある高燥の田畑より着手せよと殆んど播種せよ景況なり而して過半を發芽し漸々青色と顯し生長し趣くの際に當り寒氣酷烈爲めに蒸蘆を遅蒔きの分ち地上氷結の爲め未だ發芽の色を十九年十二月御野郡勸業委員森谷弘一報

種苗交換會の景況

磐梨郡種苗交換會 會場は該郡澤原村一番地一在り、場内と第一區に別ち第一と勸業第二編及雜穀第三櫻、杉第四桃第五林檎、梨第六葡萄第七柑橘及「エーカリ」第八人民の農業上に改良心あること推して知る可し

四郡聯合種苗交換會 上房川上阿賀拓多四郡聯合種苗交換會の十二月十一日より七日間其第一回と上房郡高粱類久寺に開く而して其出品は之と四區に分ち第一區稻第二區雜穀第三區蔬菜類第四區樹苗類にして惣數七百九拾種。之れと四郡聯合のものとすれば其數稍

や少なきに似せられと云會場整頓し交換種苗の品種亦少なからず其出品と通觀するに上房郡役所出品の米國種「カロライナ」米の形状色澤と云に原種に劣らぬ品位佳良ありて收穫亦多量なりと全郡高粱時任蒔當出品の白玉大豆及び白小豆は共に粒實肥大にして品位良好なり是れ其種類之佳なりしに依ると雖も又栽培の其當と得ざるに依るるべし窪屋郡沖村三島岡太郎か出品の

稻及び蔬菜類は何れも佳なるもの多し又全人出品の「ダイナ」と附記ありは即ち清國種体系なれども稍や其固有の形状と變ぜり上房郡杉山村より出品の切芋と附記ありし即瓜哇薯にして號名「アーリー」、グードリ「ウチ」と稱する種類なり該種瓜哇薯種中早熟のものにして一ヶ年兩回の收穫と得べきものなり又拓多郡よ

八茶及海産物第九桑、搥第十野菜及甘蔗第十一區に觀賞物と陳列を出品惣數三千六百五十。郡内有志者の購求せし苗本千七百九十。而も會場へ參觀せし者惣計貳千餘人。抑も該郡に於て種苗交換會と開たは今回と以て初めとなせしに會場能く整頓し加ふるに出品數。參觀人共に斯く多きは以て農民の各自の業に改良と加ふるの志ある測知可きなり

邑久郡第三回種苗交換會 會場は該郡豊原村に在りて出品惣數五百九種。中に就て同郡土師村久山半次郎より出だせる晚稻器量善の如し、全郡山田庄村朝倉力治が出品の中稻朝倉撰の如き共品質佳良。收穫多量なる可く、窪屋郡沖村三島岡太郎が出品の大赤木と稱する綿の良質なれは收利亦多る可く、朝倉力治か出品の蕎麥の近來各地往々植ふる所のものにて收穫極め多し山間荒蕪の地と有る者は試作して可ある如く、其他磐梨郡田賀村藤原善三治より出品の大豆、邑久郡山田庄村射越弁治出品の干鰯等孰れは良品なり而して參觀人員千九百三拾五名中種苗と交換せし者六百九拾人本郡の此會と開くこと既に三回依て、場の整頓其他

り出品の佛掌薯ふち切芋と附記せり蓋是等は何れも其種薯の大なるものは之と切截し植付くるものへに稱するものなるべしと雖も宜く其誤と正しへし其他稻種中佳品亦少なるらす其交換の種類は五百九十一種ふて其數二千八百六十二の多れに及ぬ抑も本年之惡疫流行后引續れ非常の水害と被むりしは關はらす斯く會場の整頓し開會中前後不都合のなかりしを又以て當路者諸氏の用意周密なると見るに足るへし

和氣郡種苗交換會 は十二月一日より三日間其第一回と同郡西片上村真光寺に開く其出品の總數千百拾三種米觀人員千九百七拾六人其出品と概視するに和氣郡藤野村藤武三出品の蕃薯號名入道薯と稱するは其塊根殊ふ大にして一個五百目以上に至るものあり該種の全人か多年塊根の大なるものと種と漸次改良せしものありと云ふ全郡日笠下村櫻井彌壽次外十名の出品も係る

瓜哇薯名「アーリー、ローズ」種は何れも本年再收のものにして一株三百目以上の收穫ありと云ふ馨梨藤木村永頼信太出品の洋種瓜哇薯二十餘種及該薯と以て製せし澱粉あり和氣郡益原村渡邊某出品の稻二本草は品位佳良ならざるを其株大にして收量多しと云ふ全郡矢田村藤原嘉太郎出品の干瓢の形狀大にして品位良好なり全郡田土村松島才四郎出品の田土梅の該地の特産にして核小にして肉多し全郡若木村高原嘉彌太出品の稻豊年坊と稱するものも同人か撰種せし種類にして收獲多量ありと云ふ其他參考とて海産物にして肥料とあまへさるの數種あり本會の本年第一回の會なれども出品數及び參觀人等殊に多く會場稍や整頓せり郡衙諸氏及び勸業委員の幹旋保護の篤にあらざれば何んぞ此の如にに至らん

十八十九兩年外國貿易比較概表

輸出品價	横濱	神戶	大阪	長崎	函館	其他諸港	總計
十九年	三、五〇四	三、八五〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三
十八年	三、三〇〇	三、五〇〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三
十九年	三、三〇〇	三、五〇〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三
十八年	三、三〇〇	三、五〇〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三
十九年	三、三〇〇	三、五〇〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三
十八年	三、三〇〇	三、五〇〇	九、八〇二	一、〇一八	四、七九二	二、八四三	二、八四三

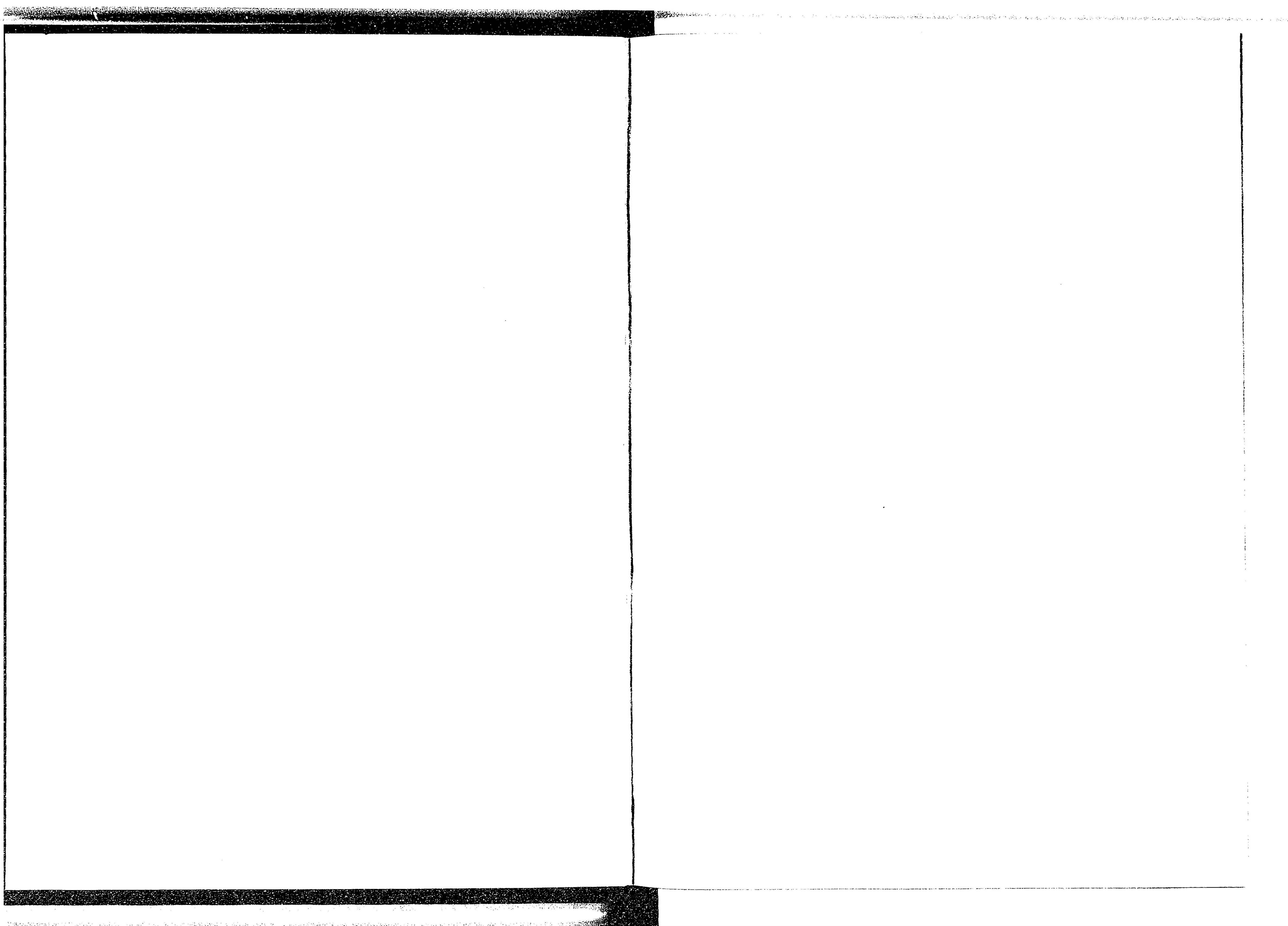
輸入品價	輸出金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價	輸入金銀價
七、六五〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、九八〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇
一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇

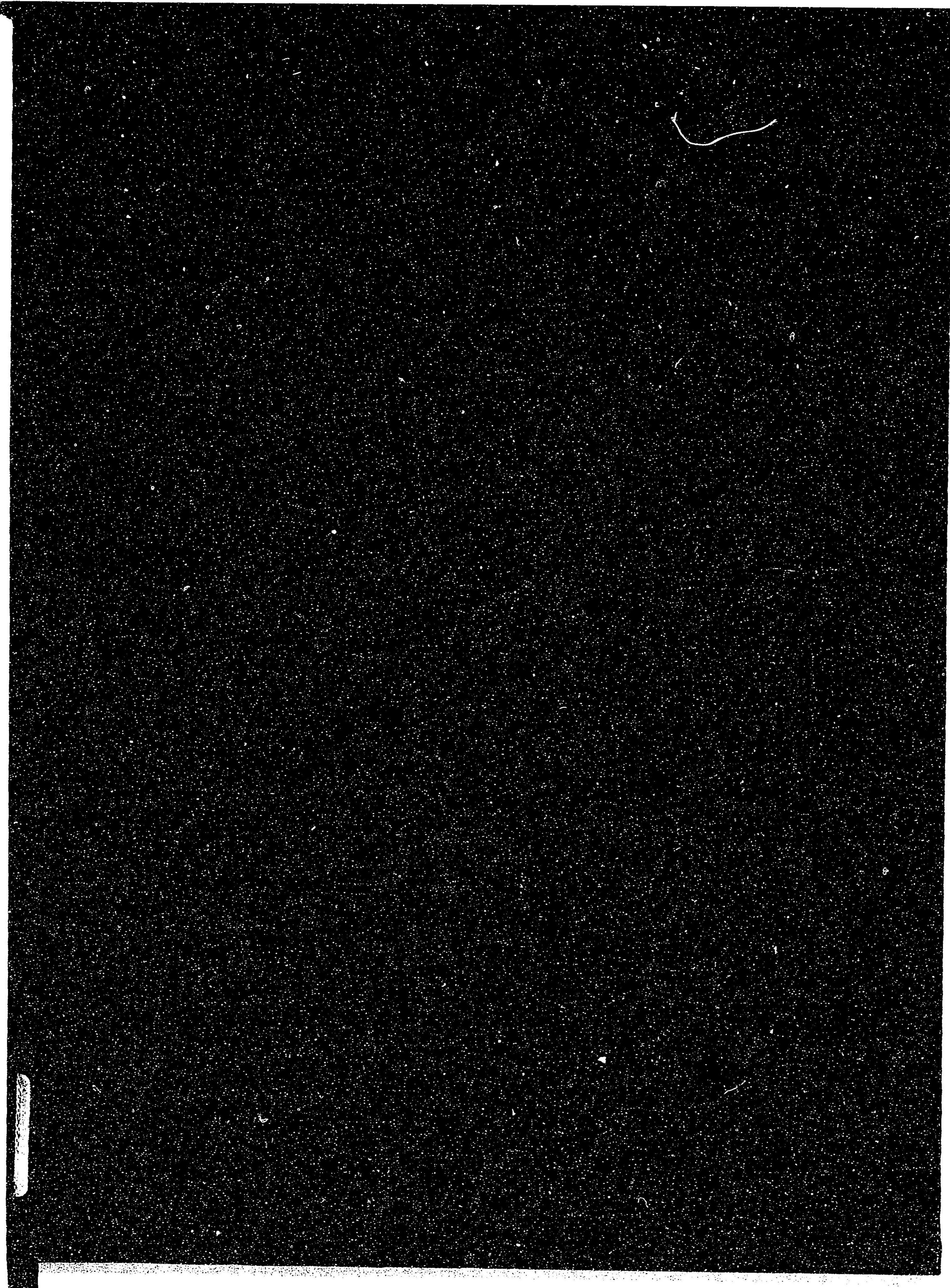
本表ノ價額ハ輸出ハ再輸入ヲ輸入ハ再輸出ヲ扣除シタル統計ナリ

關稅局製表課編纂

各地物價	名地	名地	名地	名地	名地	名地	名地	名地	名地
米	上	中	下	大豆	小豆	食豆	醬油	清酒	茶
百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤	百斤
四、三〇〇	三、八〇〇	三、五〇〇	三、二〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
四、二〇〇	三、七〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	一、四〇〇	一、一〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇
四、一〇〇	三、六〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
四、〇〇〇	三、五〇〇	三、二〇〇	二、九〇〇	一、二〇〇	九〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
三、九〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	一一〇〇	八〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
三、八〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
三、七〇〇	三、二〇〇	二、九〇〇	二、六〇〇	九〇〇	六〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
三、六〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	二、五〇〇	八〇〇	五〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三、五〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	七〇〇	四〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
三、四〇〇	二、九〇〇	二、六〇〇	二、三〇〇	六〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三、三〇〇	二、八〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇	五〇〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇
三、二〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	四〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇
三、一〇〇	二、六〇〇	二、三〇〇	二、〇〇〇	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
三、〇〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇	一九〇〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、九〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、八〇〇	二、三〇〇	二、〇〇〇	一、七〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、七〇〇	二、二〇〇	一九〇〇	一、六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、六〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、五〇〇	二、〇〇〇	一、七〇〇	一、四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、四〇〇	一九〇〇	一、六〇〇	一、三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、三〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、二〇〇	一、七〇〇	一、四〇〇	一一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、一〇〇	一、六〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二、〇〇〇	一、五〇〇	一二〇〇	九〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一九〇〇	一、四〇〇	一一〇〇	八〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、八〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、七〇〇	一二〇〇	九〇〇	六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、六〇〇	一一〇〇	八〇〇	五〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、五〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、四〇〇	九〇〇	六〇〇	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、三〇〇	八〇〇	五〇〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、二〇〇	七〇〇	四〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一一〇〇	六〇〇	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一〇〇〇	五〇〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九〇〇	四〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八〇〇	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七〇〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

9M9





14.1
17

Ⓜ

041698-000-1

14. 14-17

岡山県農商工月報

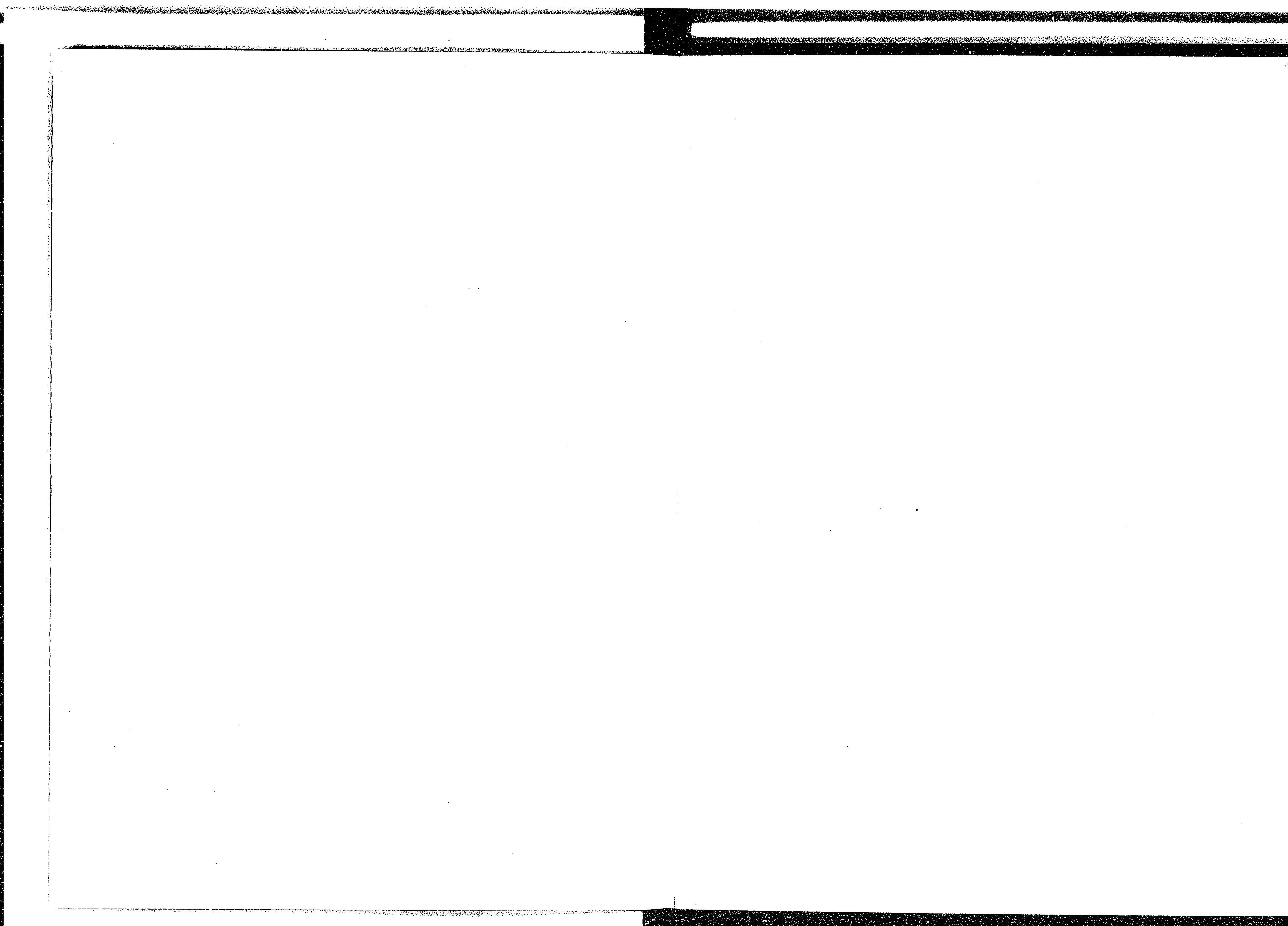
第1-12号

岡山県勧業課

M 1 9 - 2 0

BDI-0204





14.1
17

東 京 圖 書 館				
冊	號	架	函	類
	七	六	一	

道工月報

自第壹卷
至第拾二卷